

N E C

Express5800 シリーズ  
ESMPRO<sup>®</sup>/AC Advance  
Ver5.0

UL1046-406

UL1046-H406

UL1046-J406

セットアップカード

ごあいさつ

このたびは ESMPRO/AC Advance Ver5.0をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

本書は、お買い上げ頂きましたセットの内容確認、セットアップの内容、注意事項を中心に構成されています。 ESMPRO/AC Advance Ver5.0をお使いになる前に、必ずお読みください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

CLUSTERPRO、ESMPROは、日本電気株式会社の登録商標です。

Smart-UPS、PowerChute、APC は、Schneider Electric Industries SAS またはその関連会社の登録商標または商標です。

その他の会社および製品の名称は、総てそれぞれの所有する登録商標または商標です。

# 目次

第1章 製品内容.....	4
第2章 セットアップの準備.....	5
2.1 ESMPRO/AC Advance のセットアップ環境.....	5
2.2 ESMPRO/AC Advance の構成例.....	7
第3章 セットアップの方法.....	8
3.1 ESMPRO/AC Advance のインストール.....	8
3.2 ESMPRO/AC Advance のアンインストール.....	14
第4章 AMC機能.....	19
4.1 AMC 機能を使用するためのセットアップ.....	19
4.2 マルチサーバ構成の運用例 .....	25
第5章 スケジュール運転の設定.....	28
5.1 制御端末のスケジュール設定.....	28
5.2 連動端末のスケジュール設定.....	34
5.2.1 Windows 連動端末への直接設定 .....	34
5.2.2 Windows 連動端末へ設定ファイルを送信 .....	38
第6章 障害発生時には.....	42
6.1 マルチサーバ構成でのログ採取方法.....	43
第7章 注意事項.....	47
7.1 セットアップ関連.....	47
7.2 運用時における注意 .....	47

# 第 1 章 製品内容

ESMPRO/AC Advance Ver5.0のパッケージの内容は、製品に同梱されている構成品表に記載されています。

添付品が全部そろっているかどうか、確認してください。

## 第2章 セットアップの準備

ESMPRO/AC Advance は ESMPRO/AutomaticRunningController のオプション製品です。  
ESMPRO/AC Advance Ver5.0 をご使用になるためには、  
ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.0 も併せてセットアップが必要です。

### 2.1 ESMPRO/AC Advance のセットアップ環境

ESMPRO/AC Advanceをセットアップするためには、次の環境が必要です。

#### ① ハードウェア

##### <サーバ>

- ・対象機種 : Express5800シリーズ
- ・メモリ : 2.5 MB 以上  
ESMPRO/AutomaticRunningController  
と合計すると 5.0 MB 以上
- ・固定ディスクの空き容量 : 4.0 MB 以上  
ESMPRO/AutomaticRunningController  
と合計すると 11.0 MB 以上
- ・HW/BIOS機能 (\*) : 制御端末のリモート起動、リモートシャットダウンを  
利用 する 場 合 は 、 WOL(WakeOnLAN) 機 能  
を実装しているサーバOSのシャットダウンで、電源  
OFFが可能なサーバ

- (\*) サーバ本体HWが提供する機能を利用するため、機種によっては機能が提供  
されていない場合があります。  
これらの機種は、リモート起動を含め、自動運転の起動機能は実現できま  
せん。また、スタートメニューなどからのシャットダウンの起動にてサー  
バの電源がOFFされないサーバでは、自動運転の停止機能の場合にも同様  
に電源がOFFできません。  
この場合には、その後の自動起動も出来ません。  
これらの機能制限は、サーバ本体のHW仕様等に依存する為、導入の際には、  
予め使用するサーバ本体HWおよびOSを確認してください。  
(同一装置であってもBIOSのバージョンに依存する場合があります。)

##### <クライアント>

- ・対象機種 : PC98-NXシリーズ、PC-AT互換機、Express5800シリーズ
- ・メモリ : 2.5 MB 以上
- ・固定ディスクの空き容量 : 6.5 MB 以上

## ② ソフトウェア

### <サーバ>

Windows Server 2012 R2 Standard/Datacenter

Windows Server 2012 Standard/Datacenter

Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise

Windows Server 2008 Standard Edition/Enterprise Edition

Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition/Small Business Server

Windows Server 2003

Standard Edition/Enterprise Edition/Datacenter Edition/Small Business Server

Windows 8 Pro

Windows 7 Professional

Windows Vista Business

Windows XP Professional

### <クライアント>

Windows Server 2012 R2 Standard/Datacenter

Windows Server 2012 Standard/Datacenter

Windows Server 2008 R2 Standard/Enterprise

Windows Server 2008 Standard Edition/Enterprise Edition

Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition/Small Business Server

Windows Server 2003

Standard Edition/Enterprise Edition/Datacenter Edition/Small Business Server

Windows 8 Pro

Windows 7 Professional

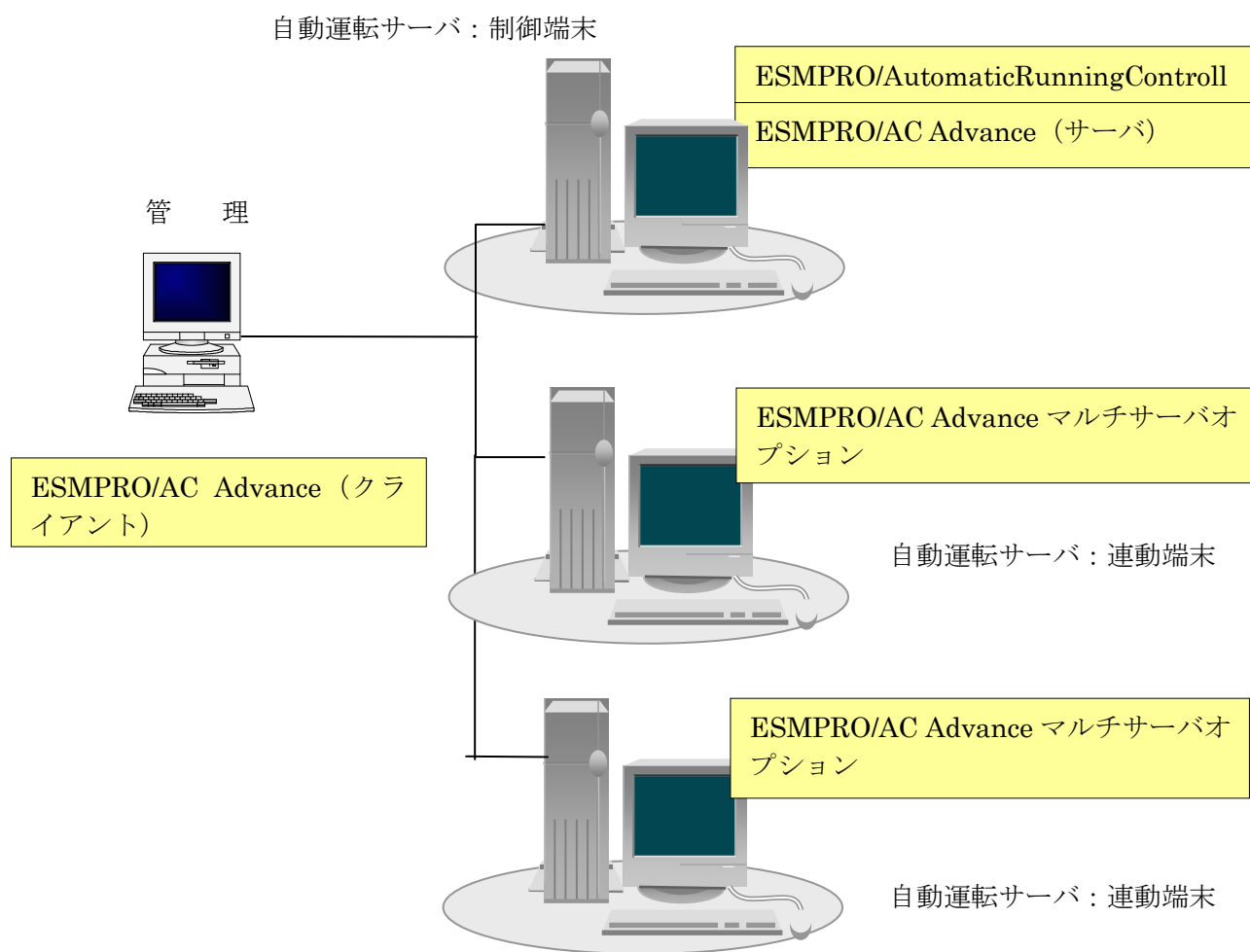
Windows Vista Business

Windows XP Professional/Home Edition

\*AMC(AC Management Console)機能によりマルチサーバ構成で制御される連動  
端末（非制御端末）には、ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションがセッ  
トアップされている必要があります。

最新の動作環境については、本製品のご紹介サイトでご確認ください。URL情報は製品  
添付品をご確認ください。

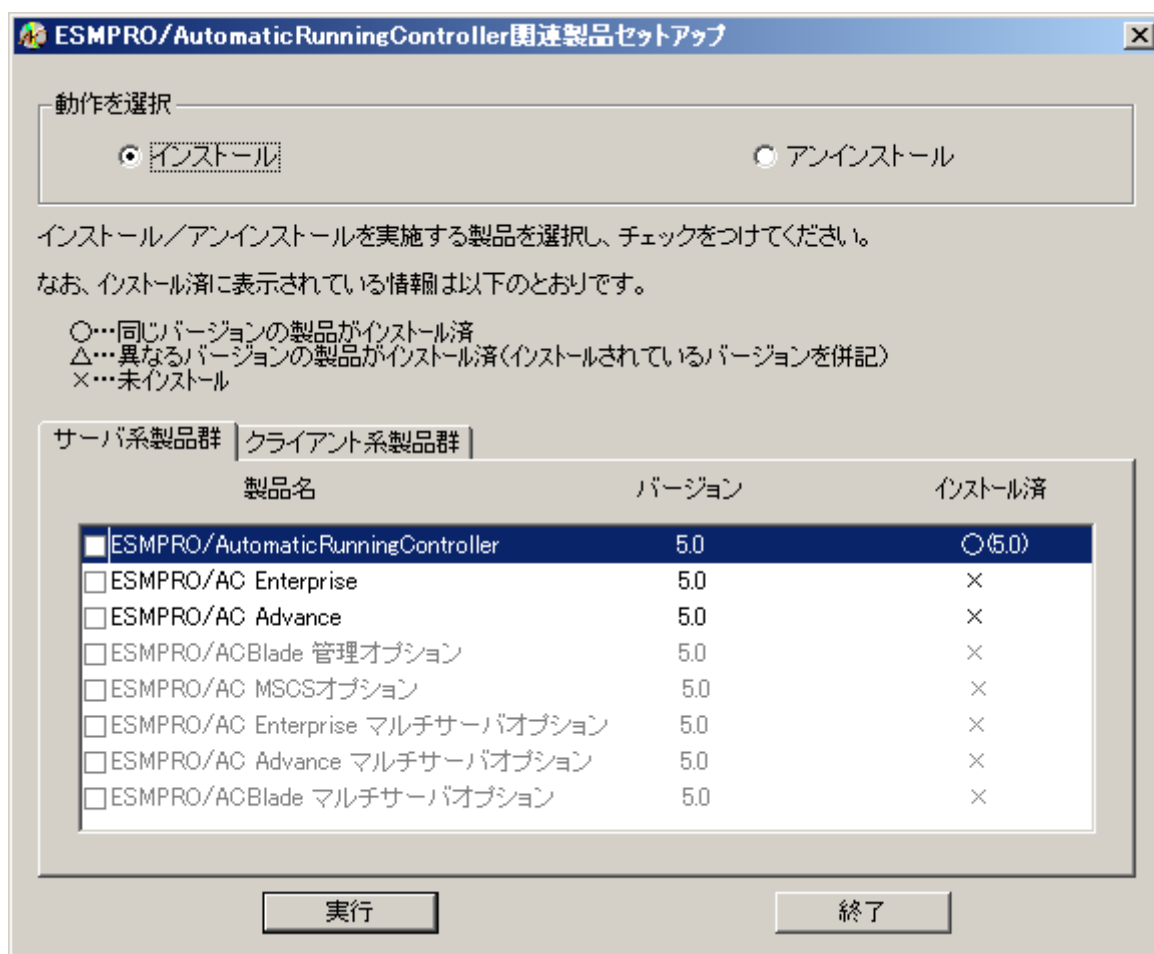
## 2.2 ESMPRO/AC Advance の構成例



## 第3章 セットアップの方法

### 3.1 ESMPRO/AC Advance のインストール

- (1) AdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンし、ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.0』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
- (2) CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。





(3) 「ESMPRO/AC Advance」のセットアップには「サーバ系製品」と「クライアント系製品」があります。

- ◆ ESMPRO/AC Advanceのサーバ系製品をインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中からESMPRO/AC Advanceを選択し、チェックを有効にします。

ESMPRO/AutomaticRunningController関連製品セットアップ

動作を選択

☒ インストール ☐ アンインストール

インストール／アンインストールを実施する製品を選択し、チェックをつけてください。  
なお、インストール済に表示されている情報は以下のとおりです。

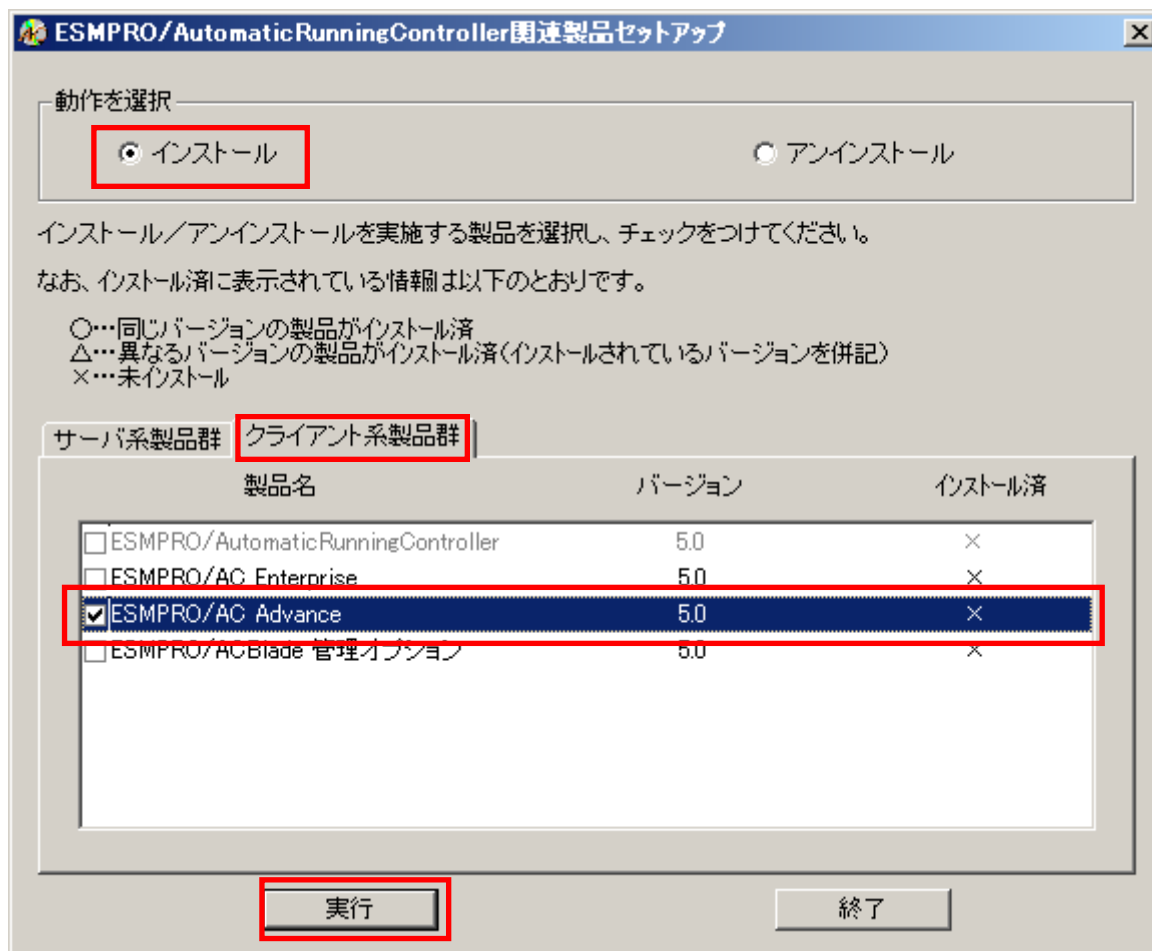
○…同じバージョンの製品がインストール済  
△…異なるバージョンの製品がインストール済(インストールされているバージョンを併記)  
×…未インストール

サーバ系製品群 クライアント系製品群

製品名	バージョン	インストール済
<input type="checkbox"/> ESMPRO/AutomaticRunningController	5.0	○(5.0)
<input type="checkbox"/> ESMPRO/AC Enterprise	5.0	×
<input checked="" type="checkbox"/> ESMPRO/AC Advance	5.0	×
<input type="checkbox"/> ESMPRO/ACBlade 管理オプション	5.0	×
<input type="checkbox"/> ESMPRO/AC MSCSオプション	5.0	×
<input type="checkbox"/> ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション	5.0	×
<input type="checkbox"/> ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプション	5.0	×
<input type="checkbox"/> ESMPRO/ACBlade マルチサーバオプション	5.0	×

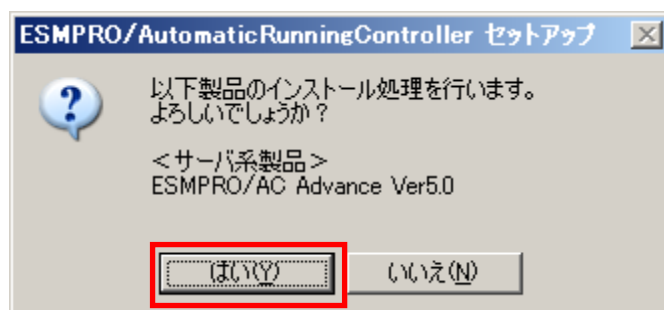
実行 終了

- ◆ ESMPRO/AC Advanceのクライアント系製品をインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「インストール」を選択したあと、クライアント系製品群タブの中からESMPRO/AC Advance を選択し、チェックを有効にします。

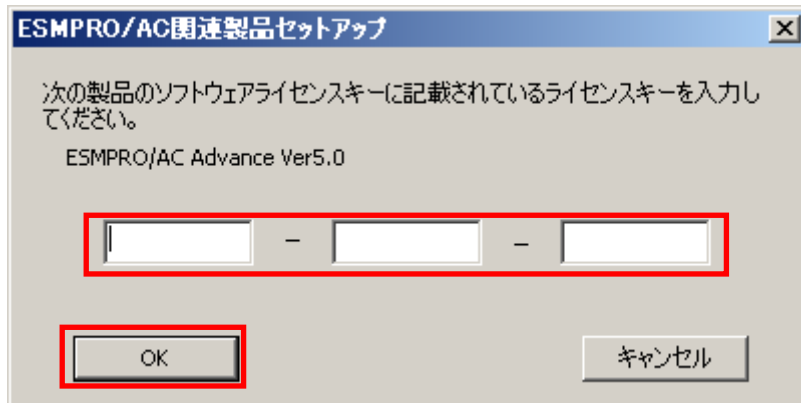


(4) 「実行」ボタンを選択します。

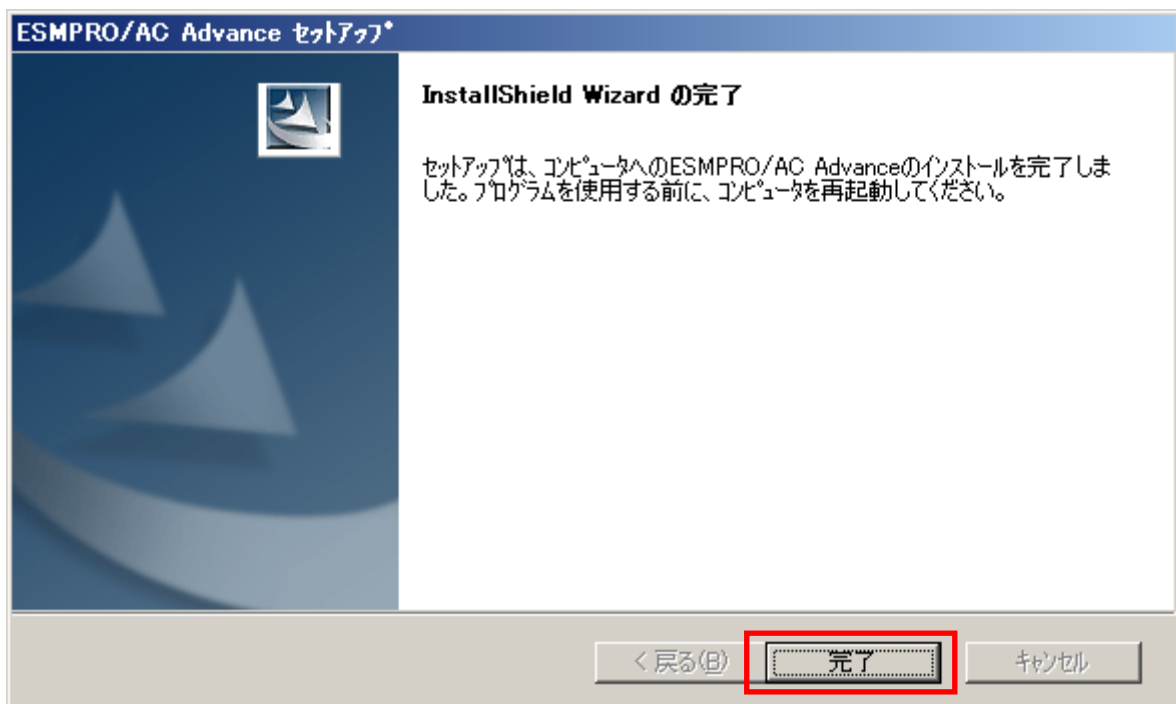
(5) 選択した製品のインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。



- (6) サーバ系製品を選択した場合、ライセンスキーの入力が促されますので、ライセンスキーを入力し、「OK」ボタンを選択します。

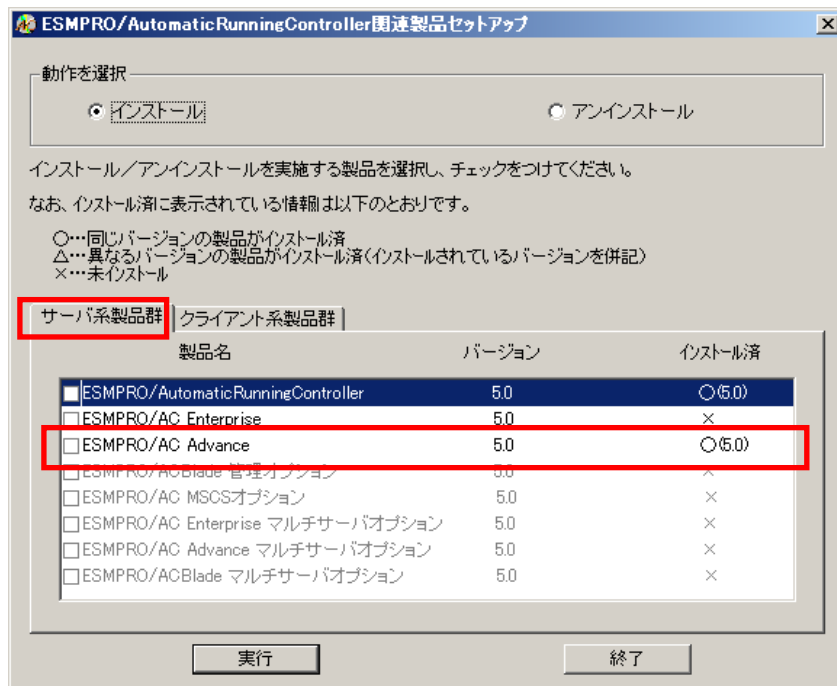


- (7) ファイルの転送が開始されます。
- (8) 次の画面が表示されたら、インストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。

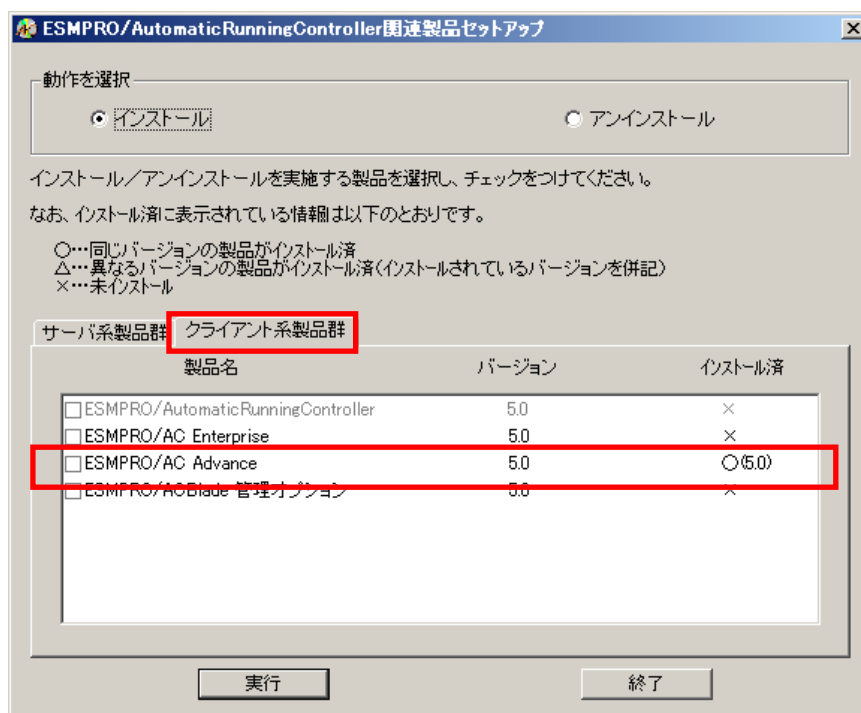


- (9) 最初の画面に戻り、ESMPRO/AC Advance のインストール済欄に○およびバージョンが表示されていることを確認します。

＜サーバ系製品インストール後の画面＞



＜クライアント系製品インストール後の画面＞



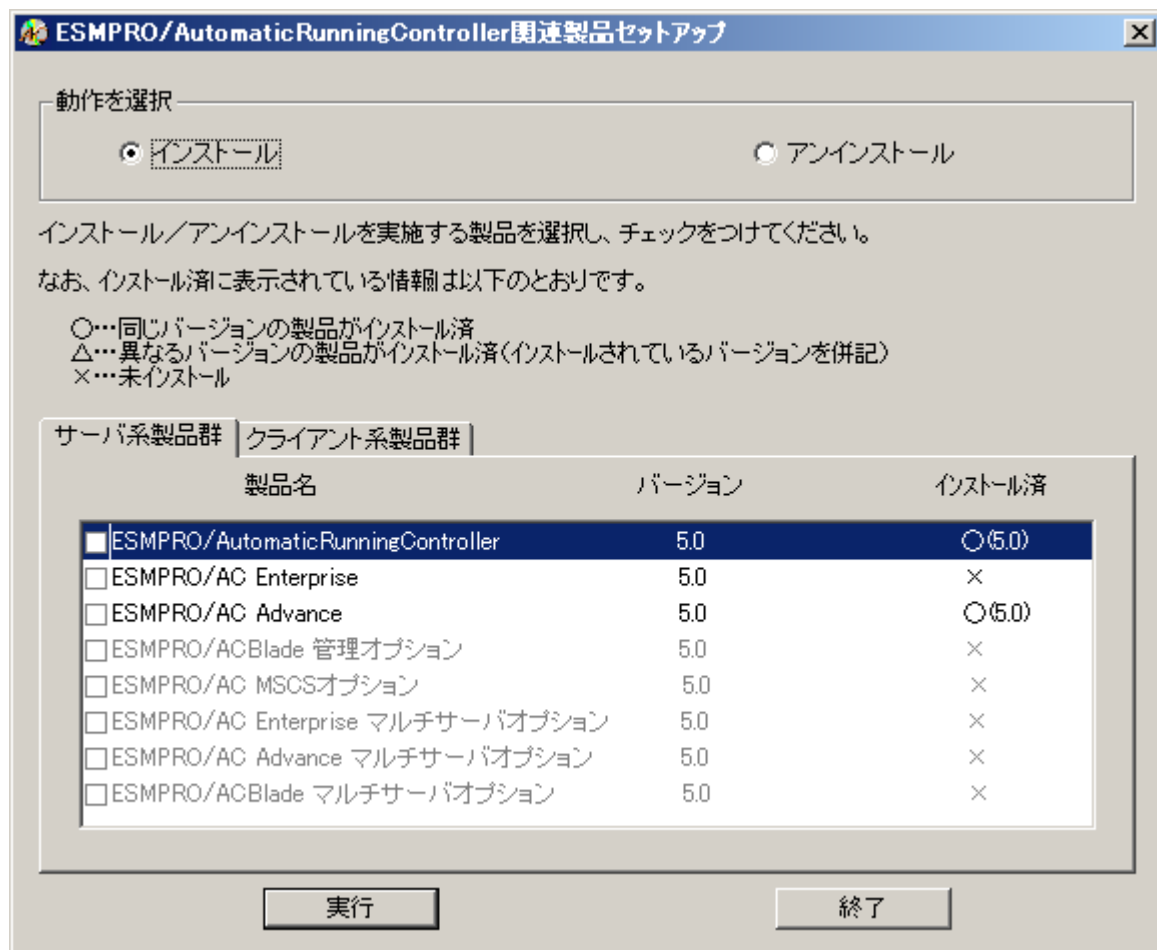
ESMPRO/AC Advanceクライアントツールの使用方法については、スタートメニューの[ESMPRO\_ACL Client]→[マルチサーバ構成データ編集]を起動した後の「ヘルプ」にてご確認ください。

## 注意

- ESMPRO/AC Advance Ver5.0 は、ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.0 がインストールされたサーバ上でのみ動作します。ESMPRO/AC Advance Ver5.0 をインストールする場合は、ESMPRO/AutomaticRunningController Ver5.0 をインストールするソフトウェアに追加してください。
- 他のオプション製品をインストールする場合は、Setupac.exe からインストール作業を続行してください。インストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。
- バージョンアップセットアップでは、これまでの運用で設定した情報を保持したまま、モジュールのコピーを行います。
- セットアップの実行中に<終了>及び<キャンセル>ボタンを押すと、セットアップ中止の確認のメッセージが表示されます。そのメッセージボックスで<終了>ボタンを押すと、セットアップは中止されます。その場合、途中まで転送されたファイルの削除は行われませんのでご注意ください。
- **Windows** ファイアウォール機能が有効な環境において利用する場合、**Windows** ファイアウォールの設定画面の[例外]タブの「プログラムの追加」から"AC Management Console"のプログラム(amc.exe)を登録してください。

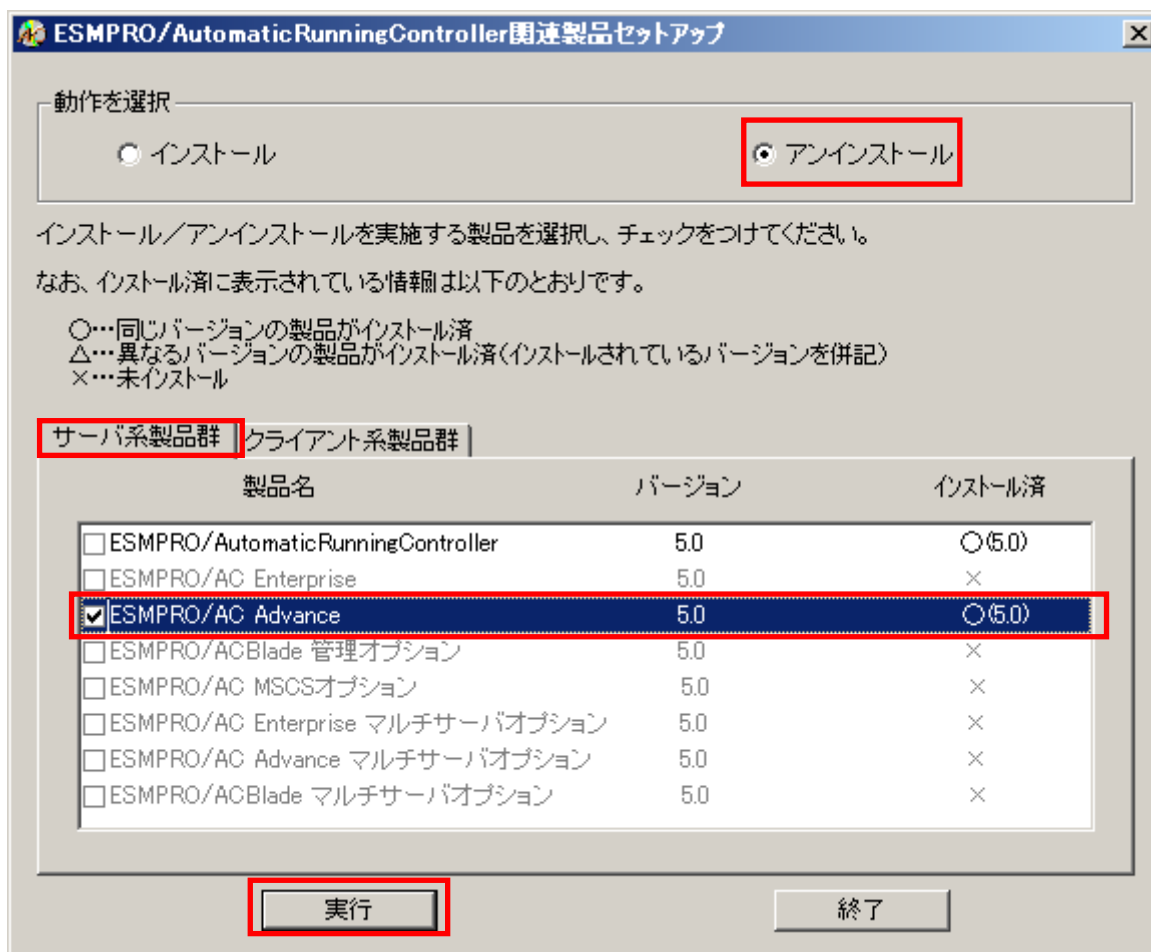
### 3.2 ESMPRO/AC Advance のアンインストール

- (1) インストールを行ったAdministratorもしくはAdministrator権限のあるユーザでコンピュータにログオンし、ラベルに『ESMPRO/AutomaticRunningController CD 2.0』と記載されているCD-ROMをCD-ROMドライブにセットしてください。
- (2) CD-ROMドライブの『Setupac.exe』を起動します。

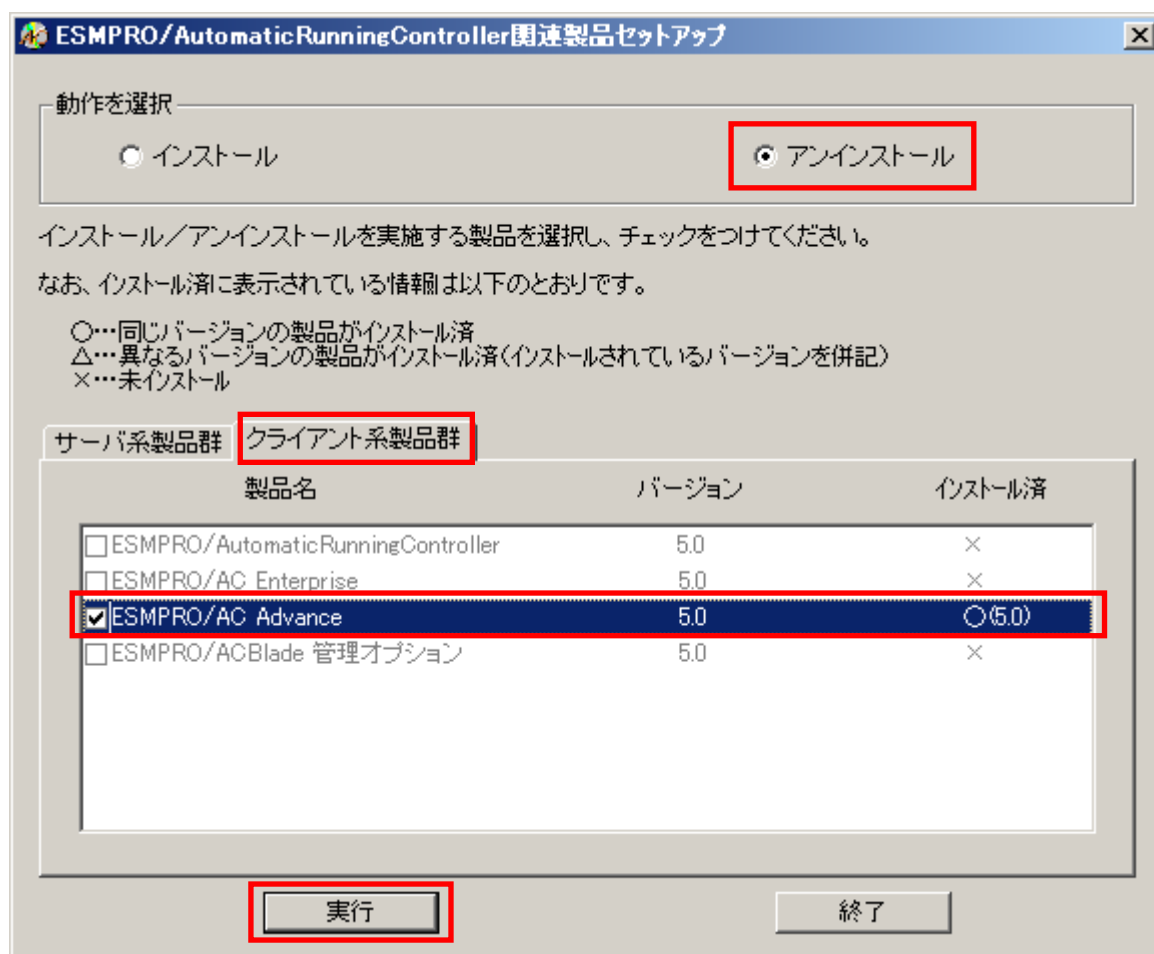


(3) 「ESMPRO/AC Advance」のセットアップには「サーバ系製品」と「クライアント系製品」があります。

- ◆ ESMPRO/AC Advanceのサーバ系製品をアンインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「アンインストール」を選択したあと、サーバ系製品群タブの中からESMPRO/AC Advanceを選択し、チェックを有効にします。

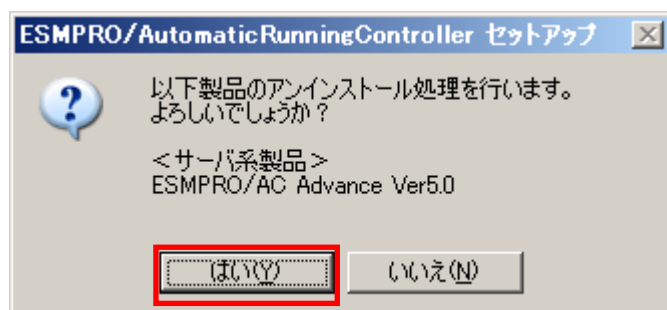


- ◆ ESMPRO/AC Advanceのクライアント系製品をアンインストールする場合、「動作を選択」のラジオボタンで「アンインストール」を選択したあと、クライアント系製品群タブの中からESMPRO/AC Advanceを選択し、チェックを有効にします。



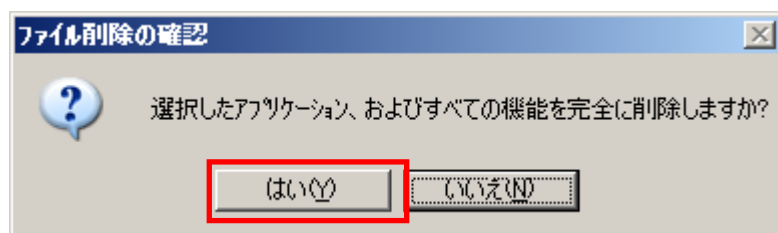
(4) 「実行」ボタンを選択します。

(5) 選択した製品のアンインストール確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。



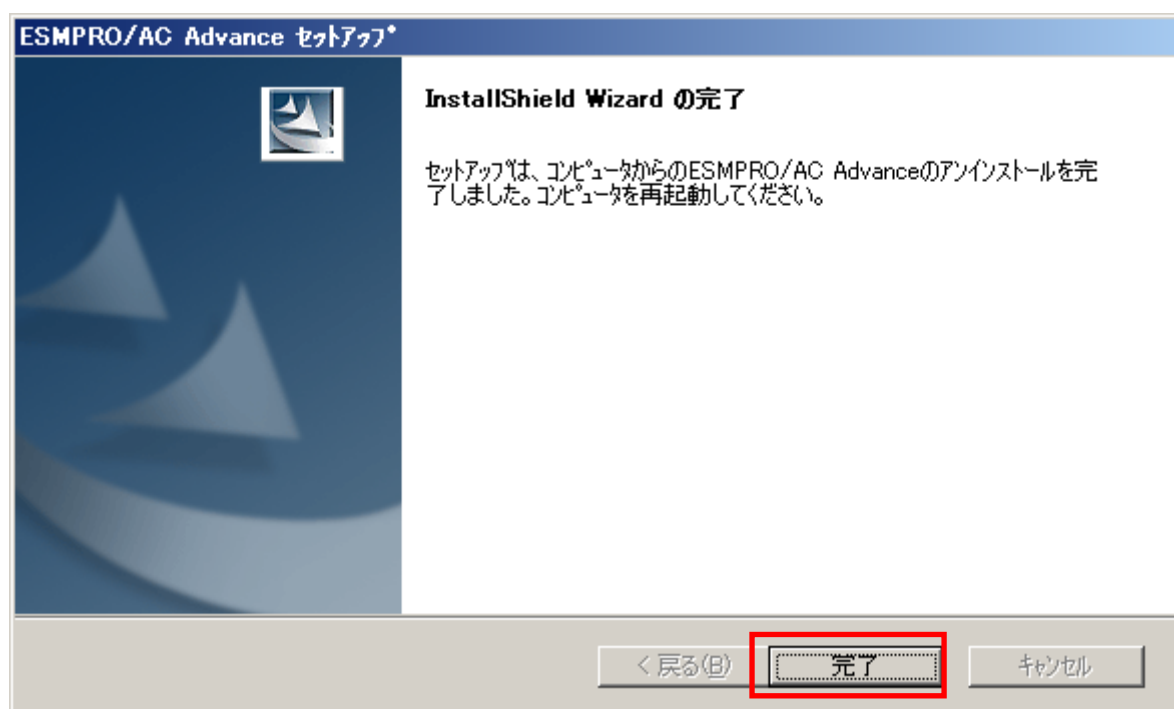


- (6) インストーラが起動され、もう一度確認メッセージが表示されますので、「はい」を選択します。



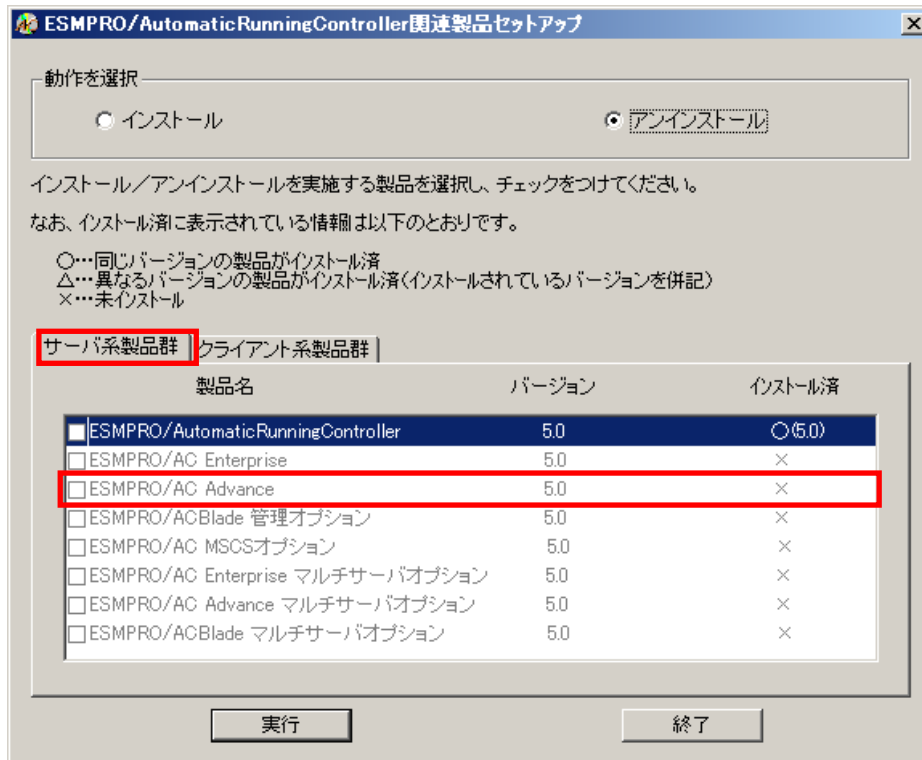
- (7) ファイルの削除が行われます。

- (8) 次の画面が表示されたら、アンインストールの完了です。「完了」ボタンを選択します。

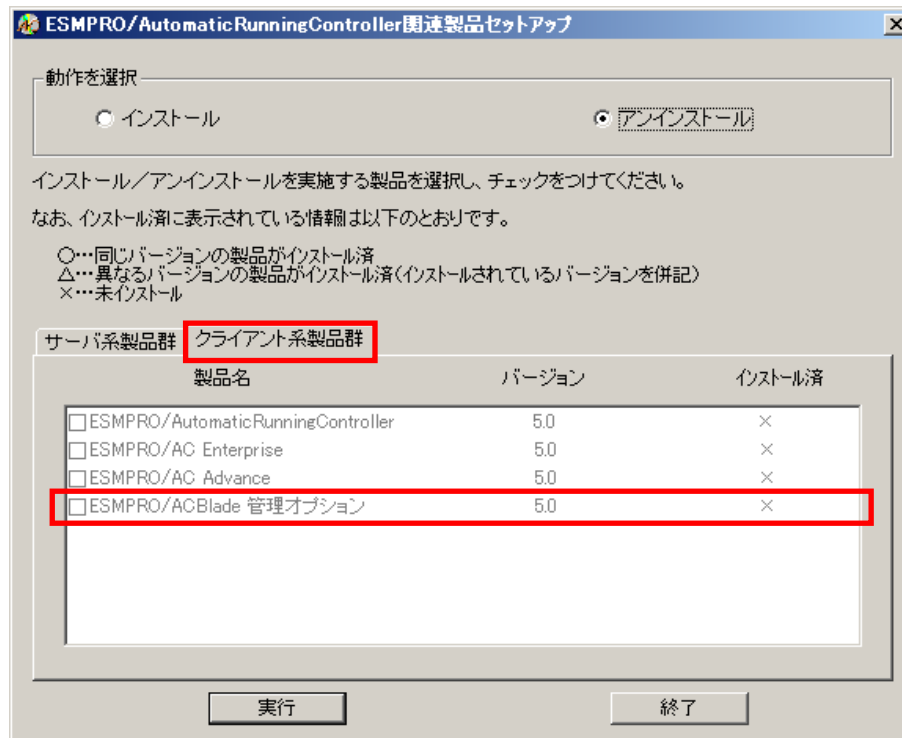


- (9) 最初の画面に戻り、ESMPRO/AC Advanceのインストール済欄に×が表示されていることを確認します。

＜サーバ系製品のアンインストール後の画面＞



＜クライアント系製品のアンインストール後の画面＞



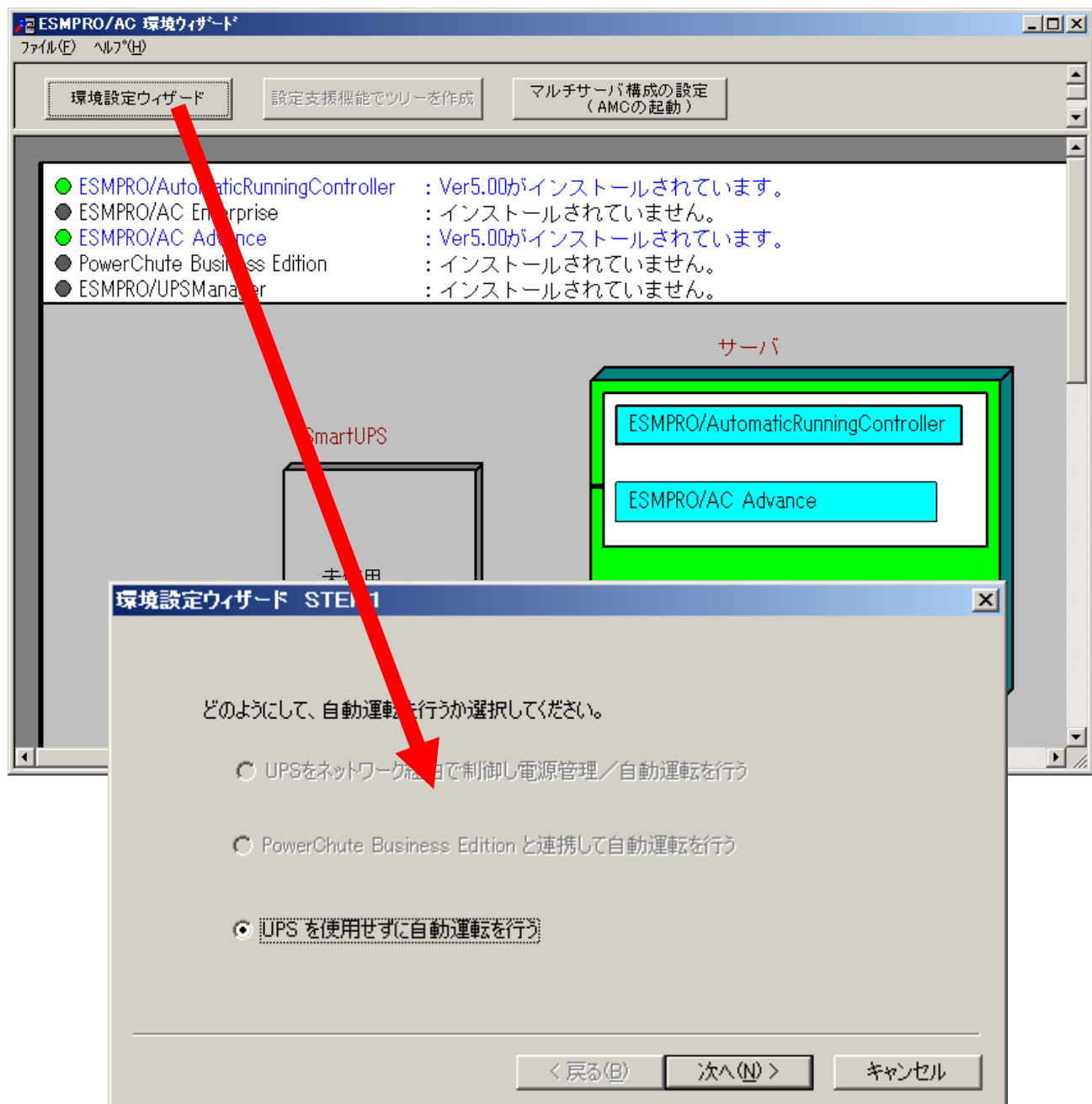
- (10) アンインストール後は、Setupac.exe を終了してシステムを再起動してください。

## 第4章 AMC 機能

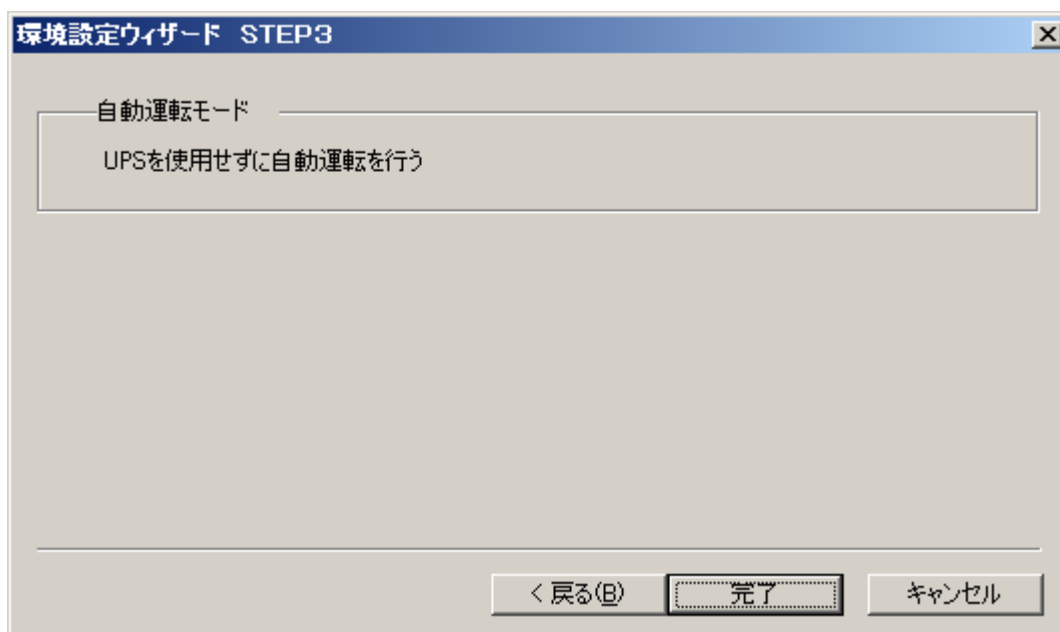
ESMPRO/AC Advance では、ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションがインストールされたサーバの統合管理を実現させるため、AMC(AC Management Console)機能を搭載しています。

### 4.1 AMC 機能を使用するためのセットアップ

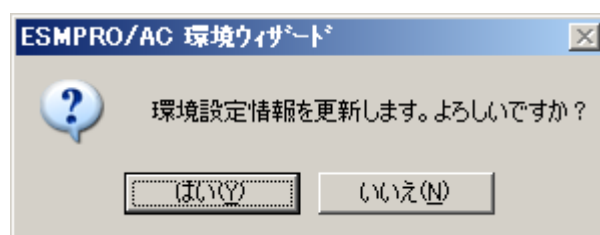
[スタート]－[ESMPRO\_AutomaticRunningController]から「ESMPRO\_AC 環境ウィザード」を起動し、「環境設定ウィザード」を選択します。



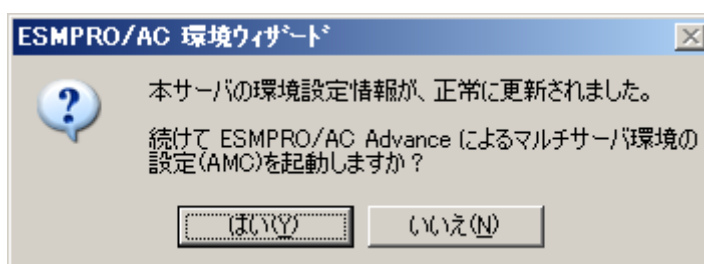
“UPS を使用せずに自動運転を行う”を選択し、「次へ(N)>」ボタンを押します。



「完了」ボタンを選択すると、以下のようなメッセージが表示されます。

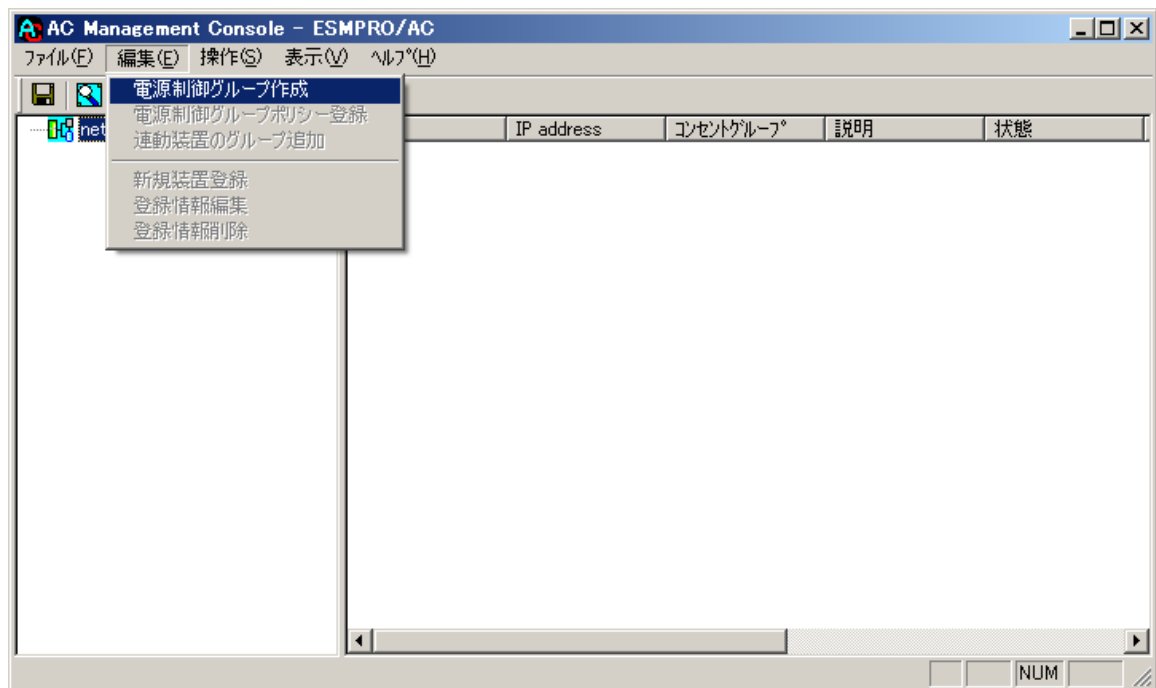


「はい(Y)」を選択すると、AMC の起動を確認するダイアログが表示されます。



AMC を起動します。

「編集」メニューから「電源制御グループ作成」を選択し、グループ名を入力します。



作成したグループ配下のアイコンをクリックすると、グループポリシーの入力画面が表示されますので、制御端末が複数台のときは制御端末に届くローカルブロードキャストアドレスを、制御端末が1台のみのときは ESMPRO/AC Advance をインストールした制御端末の IP address を入力します。

**グループポリシー**

この電源系統の共通管理情報を登録・編集します

名称

説明

通信用認識コード  (15文字までのユニークなコード)

通信用 IP address

制御端末に届く「ローカルブロードキャストアドレス」か、「制御端末の IP address」(制御が1台の場合のみ)を登録してください

統計情報採取間隔  分

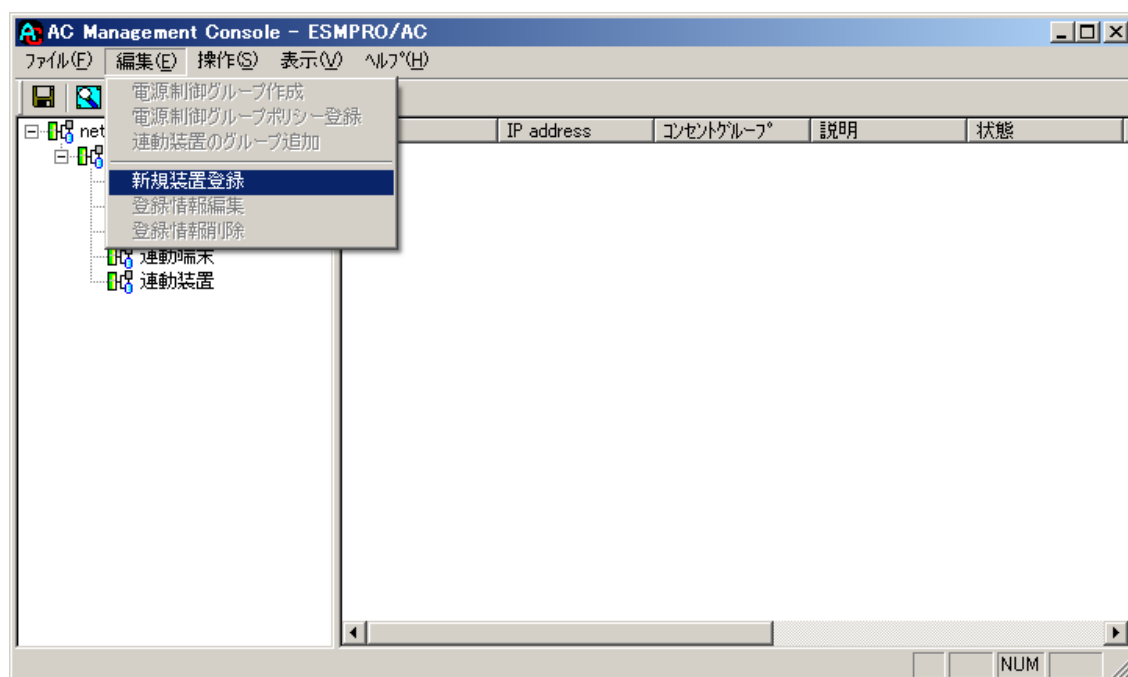
SNMP コミュニティ名

SNMP通信異常確認時間  Sec

停電中のSNMP通信異常で接続されたサーバの制御  
0: そのまま運用  
1: shutdown

OK  
キャンセル

次に、ツリー上の「制御端末」にカーソルを当て、「編集」メニューから「新規装置登録」を選択します。



「制御端末（サーバ）」の入力画面が表示されますので、制御端末（サーバ）の情報を入力します。

制御端末をリモート起動する場合は、Advance option mode のチェックを有効にし、リモート起動用 MAC address、リモート起動用 IP address、リモート起動用 ネットマスクを入力します。MAC address は、コマンドプロンプトから“ipconfig /all” と入力し、出力結果に表示されている物理アドレス（OS により Physical Address と表示されます）を入力します。

リモート起動用 MAC address には WOL 機能が有効な LAN ポートの MAC address を入力します。

※ AFT(アダプタ・フォールト・トレラント)によるチーミング設定による仮想 MAC の設定を行っている場合、いずれかの物理的な MAC address を登録する必要があります。物理 MAC address と異なるユニークな MAC アドレスを割り当てた場合、Wake On LAN による運用は行えません。

この操作を繰り返すことにより、複数の制御端末（サーバ）を登録することができます。

制御端末(サーバ)

電源制御を行うサーバを登録します。

OK  
キャンセル

名称 120RI-2 (コンピュータ名: 15文字まで。  
Linuxの場合は大/小文字を区別する必要あり)  
☐ Linux ☒ コンピュータ名を大文字に自動変換する。

IP address 172.16.1.21

説明 AC+AC Advance

ブラウザ設定

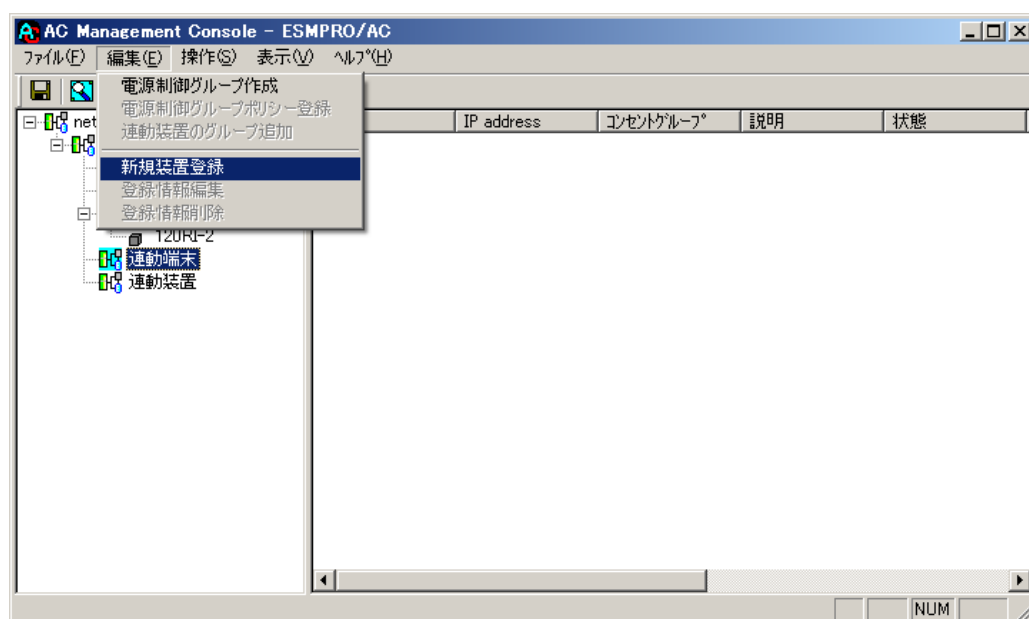
☒ Advance option mode

リモート起動用 MAC address 00-16-E6-D3-13-57

リモート起動用 IP address 172.16.1.21

リモート起動用 ネットマスク 255.255.255.0

次に、ツリー上の「連動端末」にカーソルを当て、「編集」メニューから「新規装置登録」を選択します。



「連動端末（サーバ）」の入力画面が表示されますので、ESMPro/AC Advance マルチサーバオプションがインストールされた連動端末（サーバ）の情報を入力します。

Advance option mode のチェックを有効にし、リモート起動用 MAC address、リモート起動用 IP address、リモート起動用 ネットマスクを入力します。連動端末の MAC address は、連動端末にてコマンドプロンプトから“ipconfig /all”と入力し、出力結果に表示されている物理アドレス（OS により Physical Address と表示されます）を入力します。

リモート起動用 MAC address には WOL 機能が有効な LAN ポートの MAC address を入力します。

※連動端末（サーバ）の起動は、制御端末から Wake On LAN パケットを受信して行われます。この際、制御端末から連動端末への Wake On LAN パケットは、ブロードキャスト・アドレス宛に送信されます。このため、制御端末の監視対象となる連動端末は、制御端末と同じネットワークセグメントで構築されている必要があります。

※AFT(アダプタ・フォールト・トレラント)によるチーミング設定による仮想 MAC の設定を行っている場合、いずれかの物理的な MAC address を登録する必要があります。物理 MAC address と異なるユニークな MAC アドレスを割り当てた場合、Wake On LAN による運用は行えません。

この操作を繰り返すことにより、複数の連動端末（サーバ）を登録することができます。

連動端末(サーバ)

制御端末により、電源制御されるサーバを登録します。

OK

キャンセル

サーバ種別: Windowsサーバ

名称: 120RF-1 (コンピュータ名: 15文字まで。Linuxの場合は大/小文字を区別する必要あり)

☒ コンピュータ名を大文字に自動変換する。

ドメイン: (ドメイン名を登録。例: domain.co.jp)

IP address: 172.16.1.16

ネットワーク情報取得

ユーザ名: (対象サーバに接続可能なユーザ名、パスワード)

パスワード:

サーバへの接続確認

説明: Advanceマルチサーバオプション

ブラウザ設定

☒ Advance option mode

リモート起動用 MAC address: 00-A0-C9-E3-6E-9C

リモート起動用 IP address: 172.16.1.16

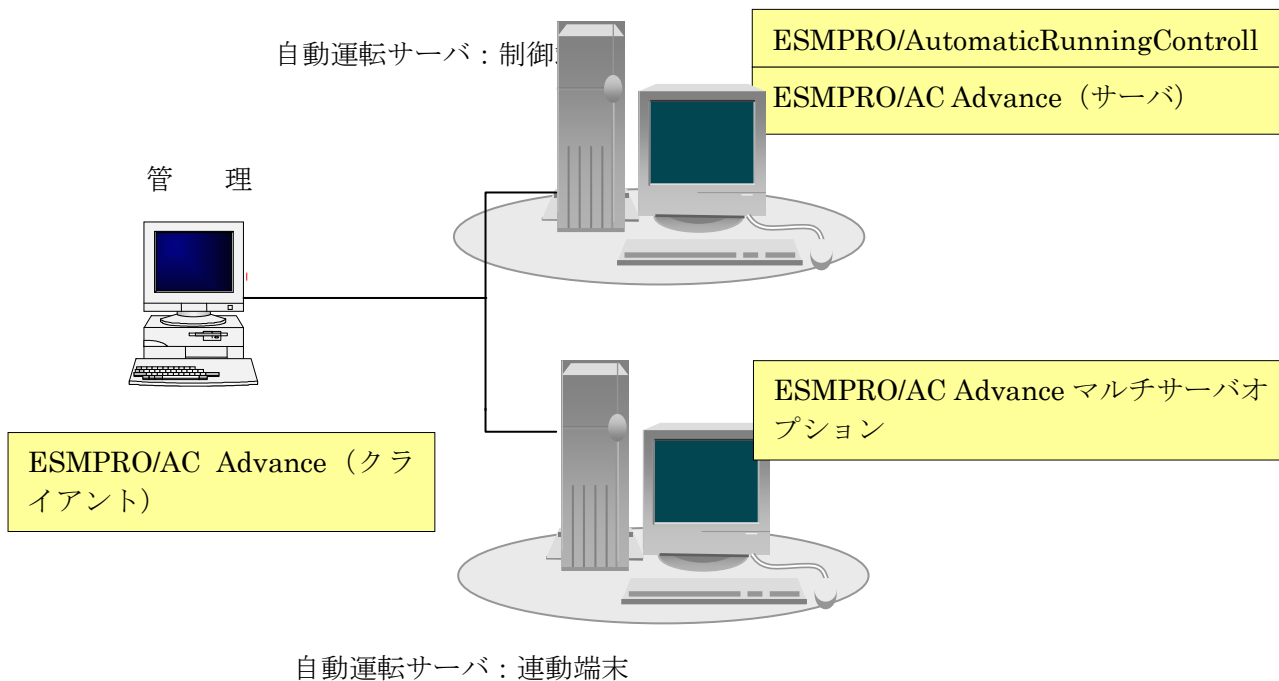
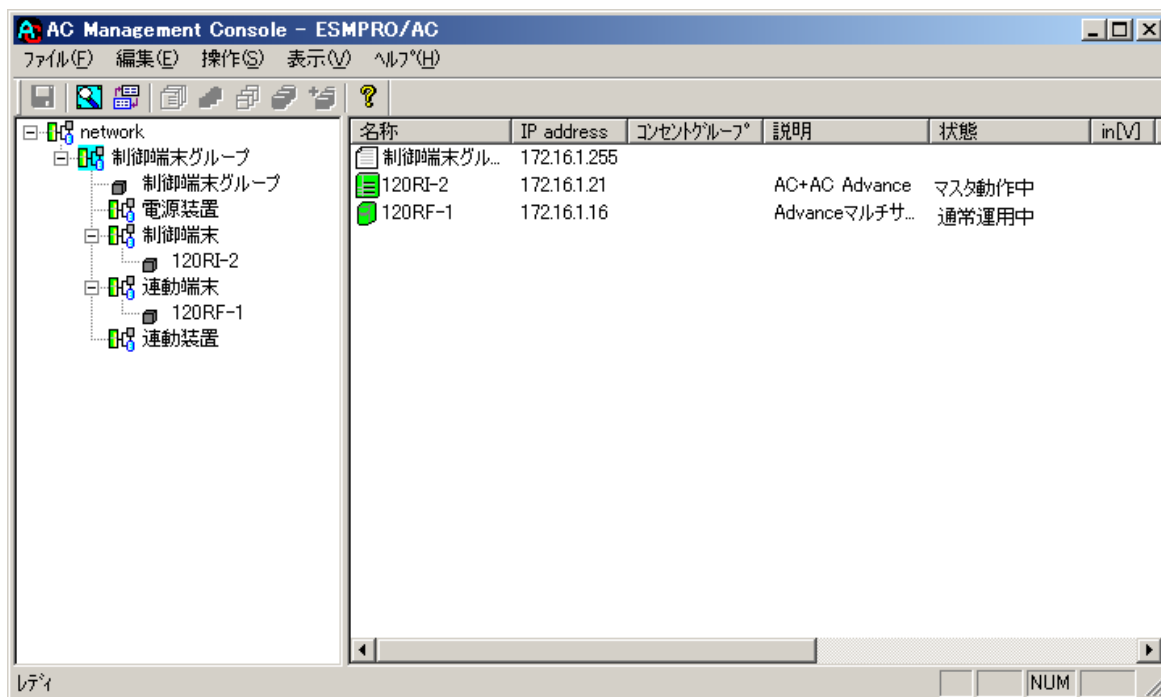
リモート起動用 ネットマスク: 255.255.255.0



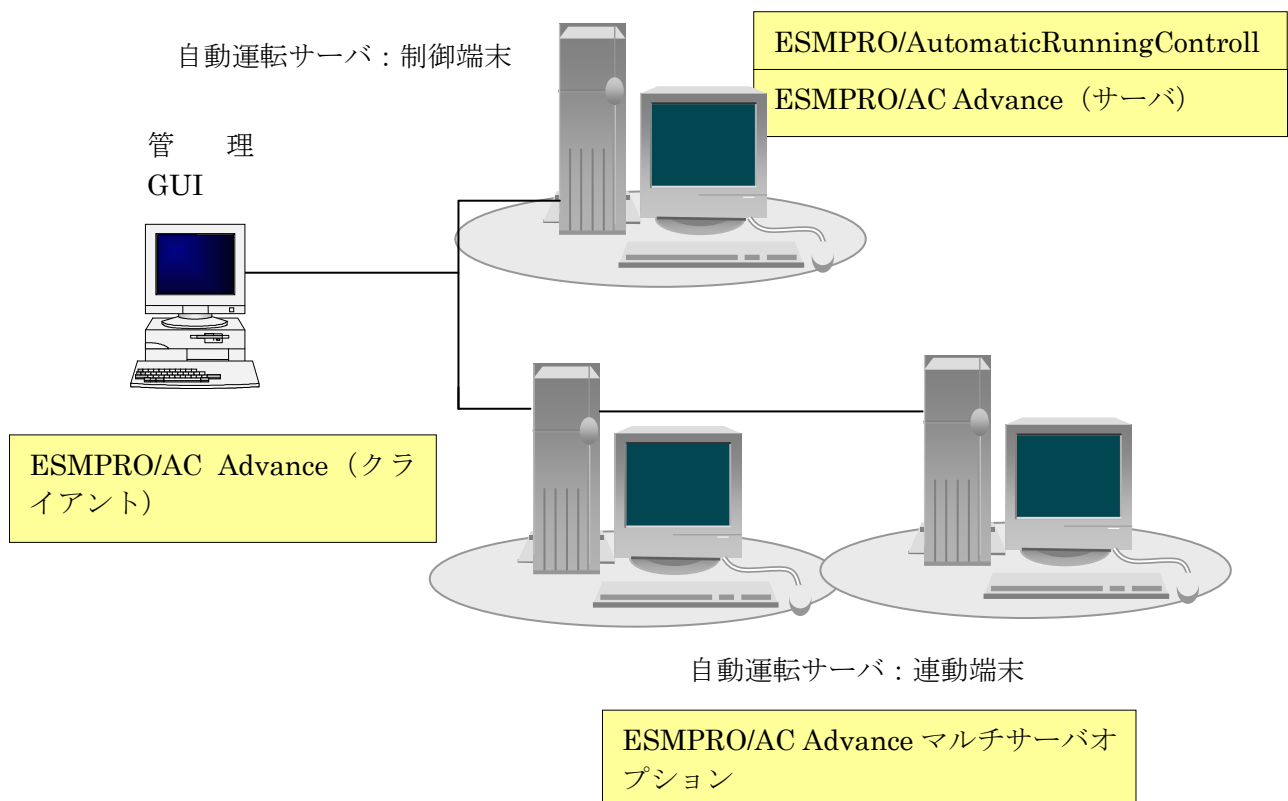
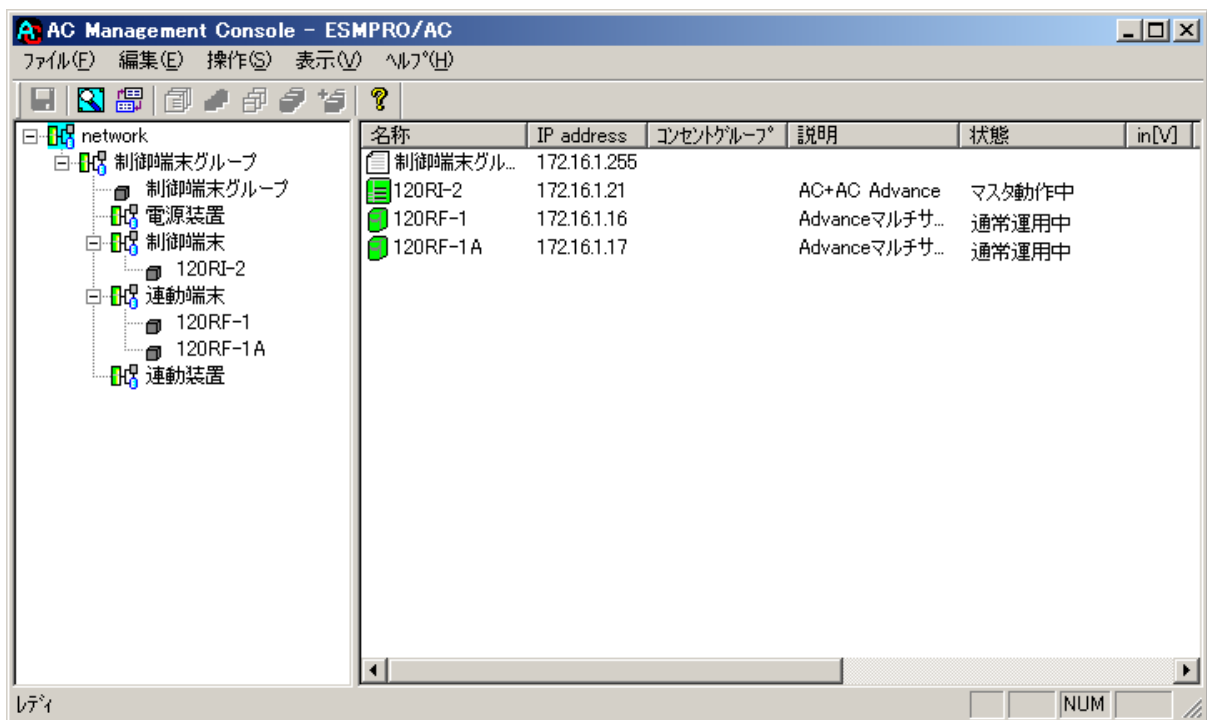
## 4.2 マルチサーバ構成の運用例

AMC では、制御端末に ESMPRO/AC Advance がインストールされたサーバ、連動端末に ESMPRO/AC Advance マルチサーバオプションがインストールされた端末を登録します。

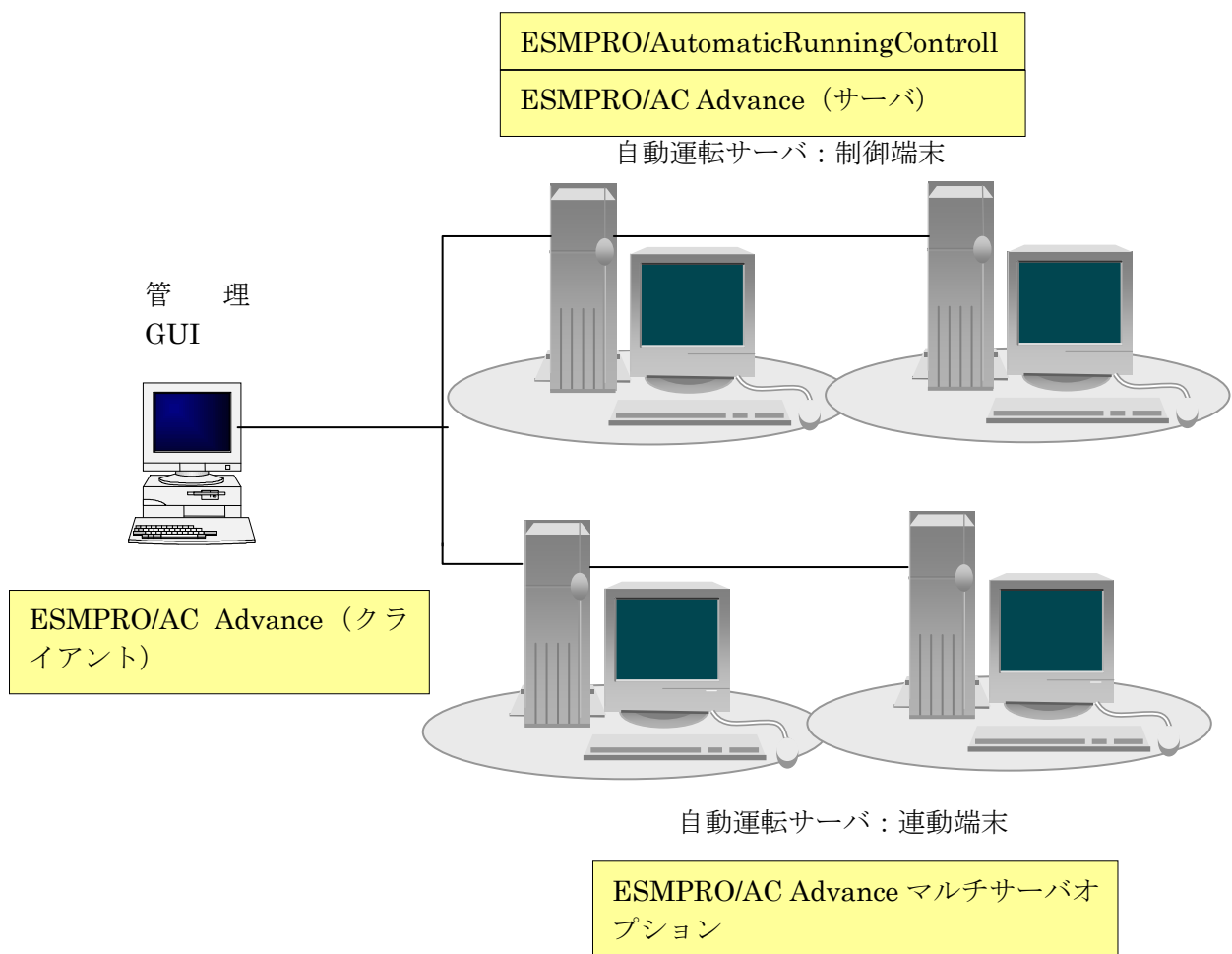
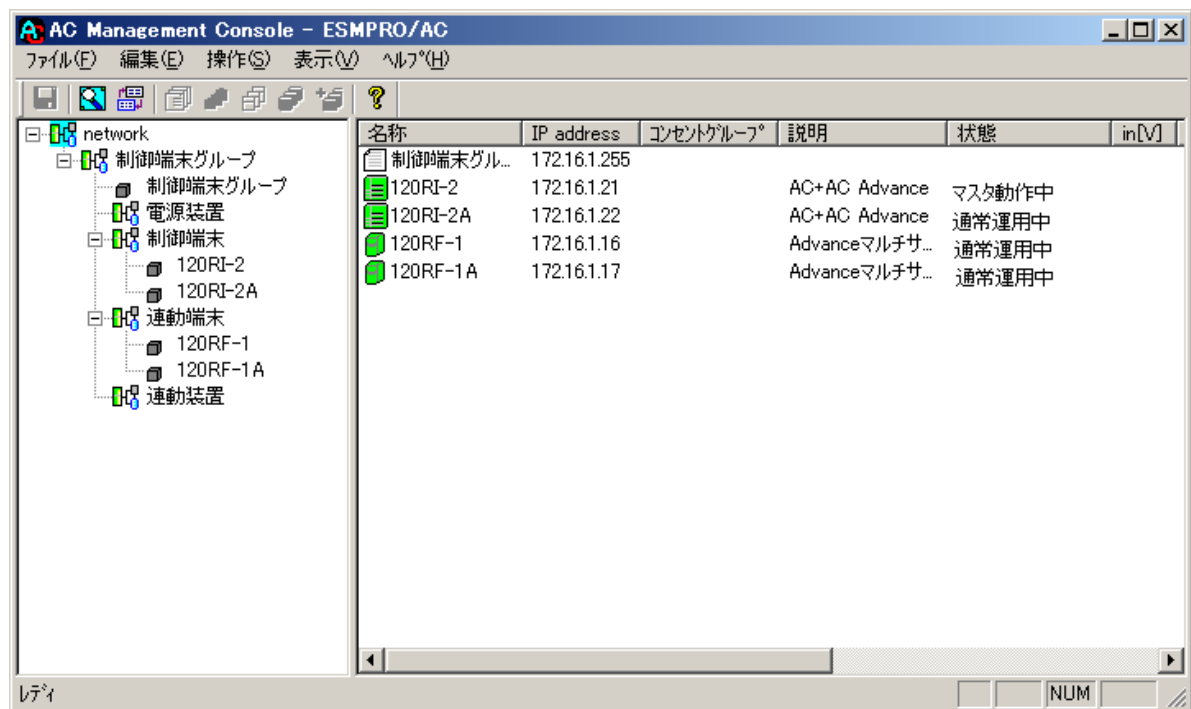
(1) 制御端末1台、連動端末1台の場合



(2) 制御端末 1 台、連動端末 2 台の場合



(3) 制御端末 2 台、連動端末 2 台の場合



## 第5章 スケジュール運転の設定

### 5.1 制御端末のスケジュール設定

制御端末のスケジュール登録を行うには、『ESMPRO/AutomaticRunningController GUI』の設定を行う必要があります。

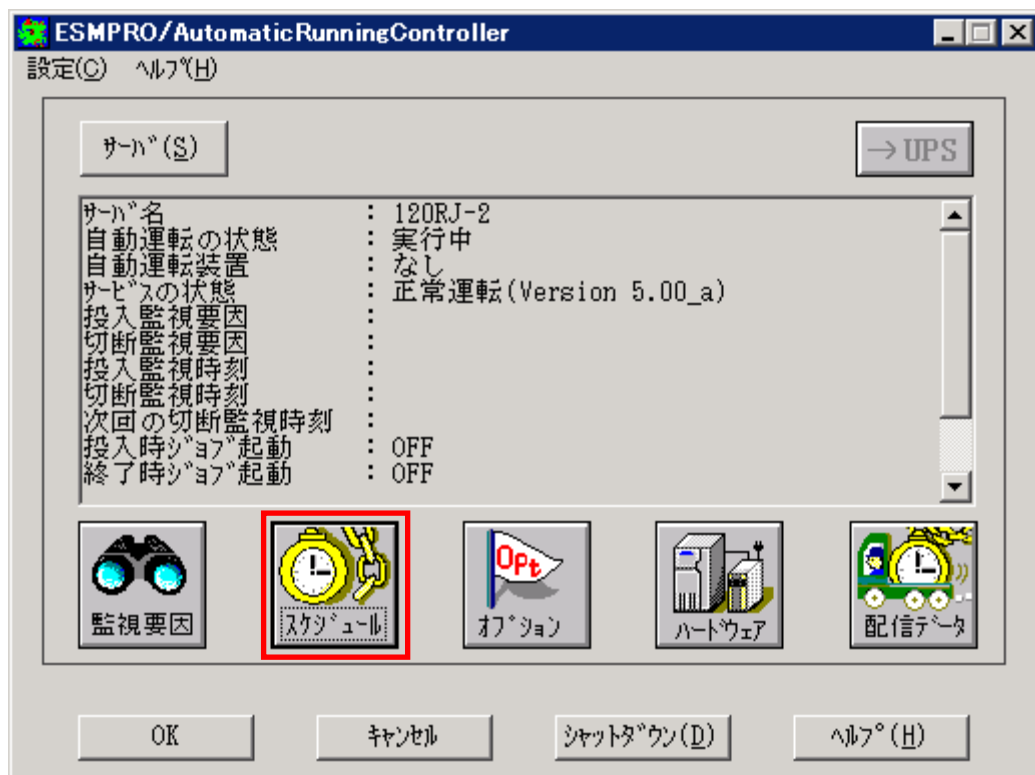
以下を例に、スケジュール運転の設定方法を説明します。

- ①月曜日から金曜日までは、23時00分 にリブート。
- ②土日祝は、運用しない。

#### (1) ESMPRO/AutomaticRunningController GUIの起動

[スタート]メニュー → [プログラム] → [ESMPRO\_AutomaticRunningController] → [ESMPRO\_AC] を起動してください。

起動すると以下のような画面が表示されますので「スケジュール」ボタンを選択してください。



- (2) 「スケジュール」画面が表示されますので、画面内の  
“通常 09時00分から17時00分まで ”（赤枠）を選択し「修正」ボタンを選択してください。

“月曜日から金曜日までは、23 時 00 分に電源切断。”の設定を行います。  
以下の時間に変更し「OK」ボタンを選択してください。

- 投入時間 9 時 00 分 → 23 時 01 分
- 切断時間 17 時 00 分 → 23 時 00 分

(3) 「スケジュール」画面に戻りますので、(2) で変更した時間が反映されているか確認を行います。

問題なければ、「設定」ボタンを選択して、“②土日祝は、運用しない。” の設定を行います。

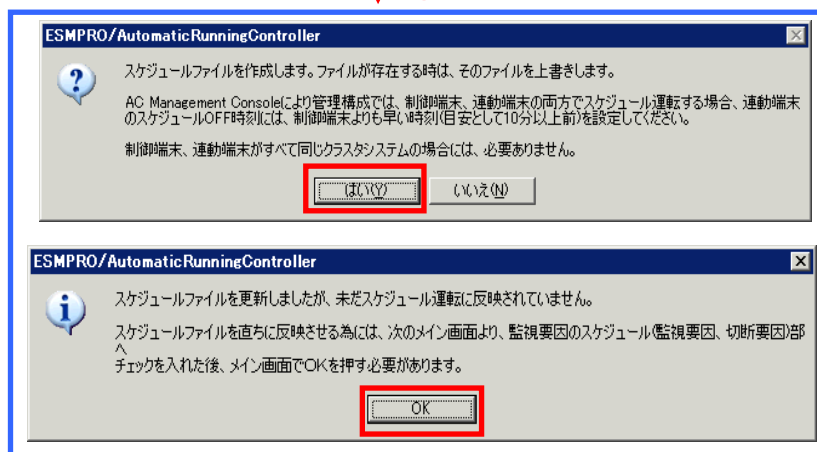
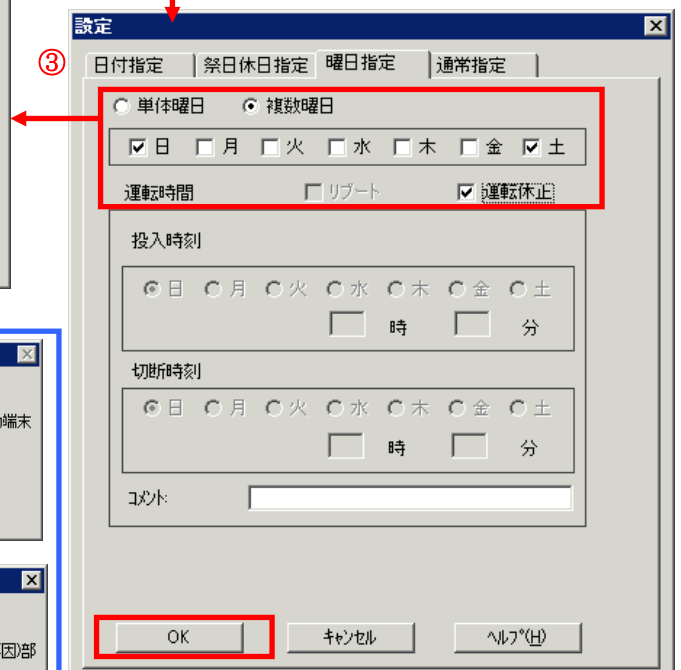
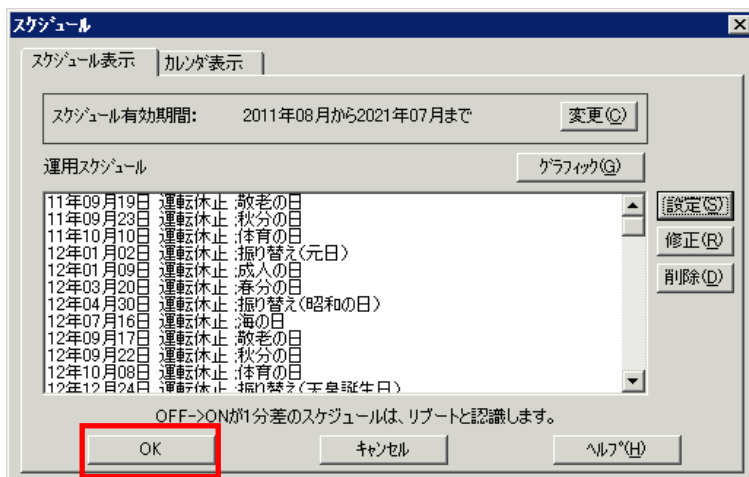
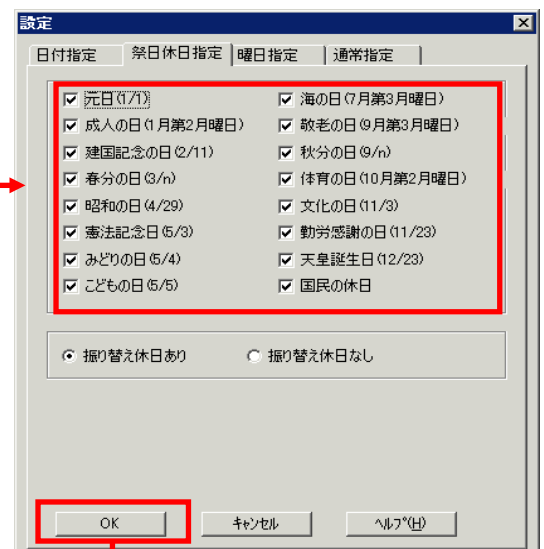
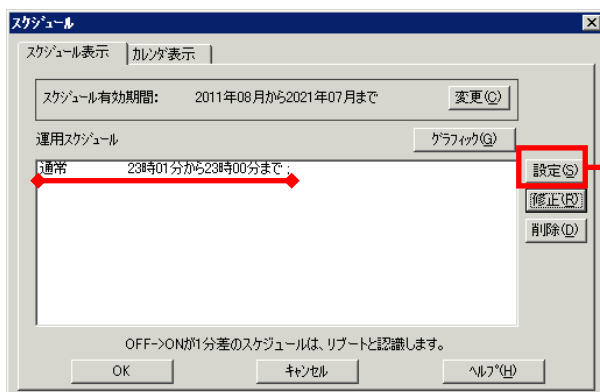
①「設定」画面が表示されましたら「祭日休日指定」タブを選択します。赤枠内全てのチェックを有効にします。

②次に「曜日指定」タブを選択します。

同じく赤枠内のように、「複数曜日」と「日」、「土」、「運転休止」のチェックを有効にして「OK」ボタンを選択してください。

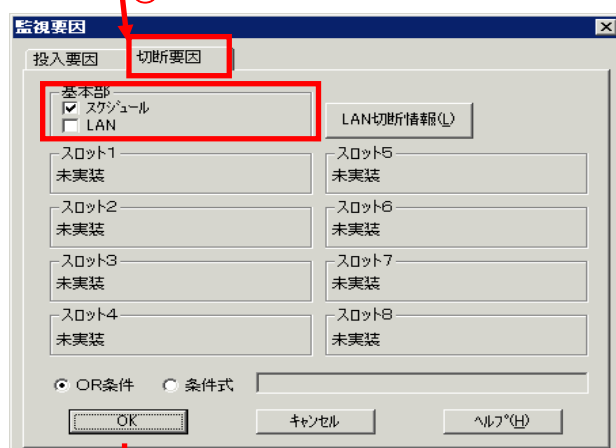
③「スケジュール」画面に戻りますので、「OK」ボタンを選択してください。

④青枠のようなメッセージ画面が表示されますので、全て「はい」または「OK」ボタンを選択してください。

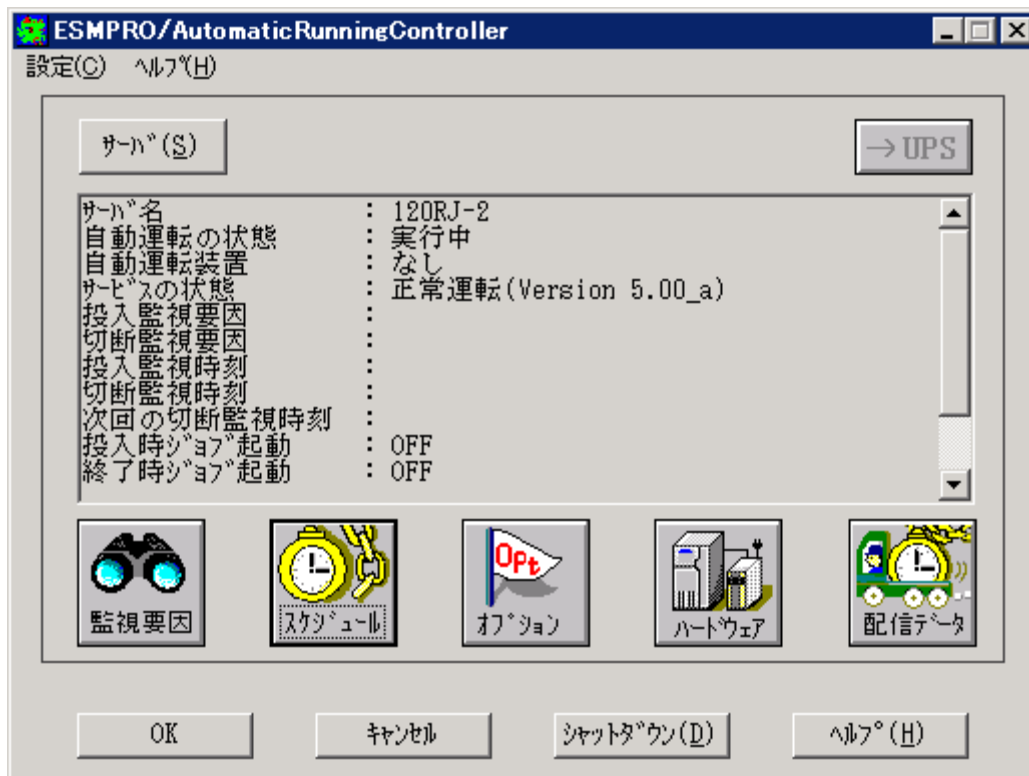


(4) 以下のような画面に戻りましたら、「監視要因」ボタンを選択してください。

- ① 以下のような画面が表示されましたら、「切断要因」タブ内にある、“基本部”欄の「スケジュール」のチェックを有効にしてください。  
その後「OK」ボタンを選択してください。
- ②メッセージ画面が表示されますので、「OK」ボタンを選択してください。

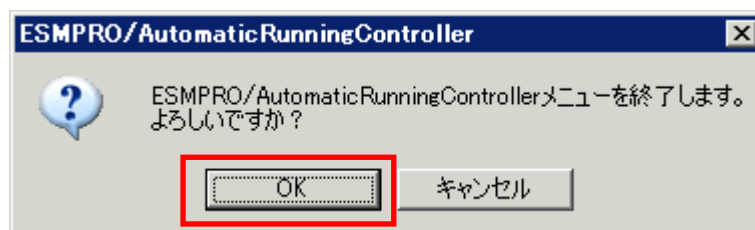


- (5) 以下のような画面に戻りましたら、「OK」ボタンを選択してください。



以下のようなメッセージ画面が表示されます。

「OK」ボタンを選択すると、ESMPRO/AutomaticRunningController GUI が終了します。  
「キャンセル」ボタンを選択すると、切断監視要因、切断監視時刻、次回の切断監視時刻に、スケジュール運転情報が表示されます。





- (6) 「スケジュール」ボタンを選択し、グラフィック表示やカレンダー表示にて正しくスケジュールが登録されていることをご確認ください。

**ESMPRO/AutomaticRunningController**  
設定(C) ヘルプ(H)

サーボ(S) → UPS

サーボ名 : 120RJ-2  
自動運転の状態 : 実行中  
自動運転装置 : なし  
サービスの状態 : 正常運転 (Version 5.00\_a)  
投入監視要因 : スケジュール  
切断監視要因 : スケジュール  
投入監視時刻 :  
切断監視時刻 : 2012/10/18 17:00  
次回の切断監視時刻 : 2012/10/19 17:00  
投入時ジョブ起動 : OFF  
終了時ジョブ起動 : OFF

監視要因  
スケジュール

OK キャンセル

**スケジュール**

スケジュール表示 | カレンダー表示

スケジュール有効期間: 2012年10月から2022年09月まで 変更(C)

運用スケジュール

グラフィック(G)

設定(S)  
修正(R)  
削除(D)  
ヘルプ(H)

12年10月08日 運転休止 体育の日  
12年12月24日 運転休止 振り替え(天皇誕生日)  
13年01月14日 運転休止 成人の日  
13年03月20日 運転休止 春分の日  
13年05月06日 運転休止 振り替え(こどもの日)  
13年07月15日 運転休止 海の日  
13年09月16日 運転休止 敬老の日  
13年09月23日 運転休止 秋分の日  
13年10月14日 運転休止 体育の日  
13年11月04日 運転休止 振り替え(文化の日)  
14年01月13日 運転休止 成人の日

**120RJ-2 - ESMACGRS**  
ファイル(F) ヘルプ(H)

12 年 10 月 18 日 表示(G)

2012 年 10 月 18 日 (Thu)

表示スクロール タイムスケール: 週  
<<-(A) (S)->> -(K) (L)+

10/14 (Sun)	(Mon)	(Tue)	(Wed)	(Thu)	(Fri)	(Sat)	10/21 (Sun)	(Mon)	(Tue)	(Wed)
青い所	青い所	青い所	青い所	青い所	青い所	青い所	青い所	青い所	青い所	青い所

表示可能スケジュール: ~2022/09/30 17:00迄 レコード数: 2476

青い所をクリックすると  
ここに詳細を表示します

## 5.2 連動端末のスケジュール設定

連動端末でスケジュール運転を行うための手順としては、制御端末上の ESMPRO/AC GUI にて連動端末へ接続し、直接連動端末のスケジュール運転の設定を行う方法と、制御端末上で設定ファイルを作成し、そのファイルを Windows 連動端末へ送信する二種類の方法があります。以下では、に手順を記載します。

以下を例に、スケジュール運転の設定方法を説明します。

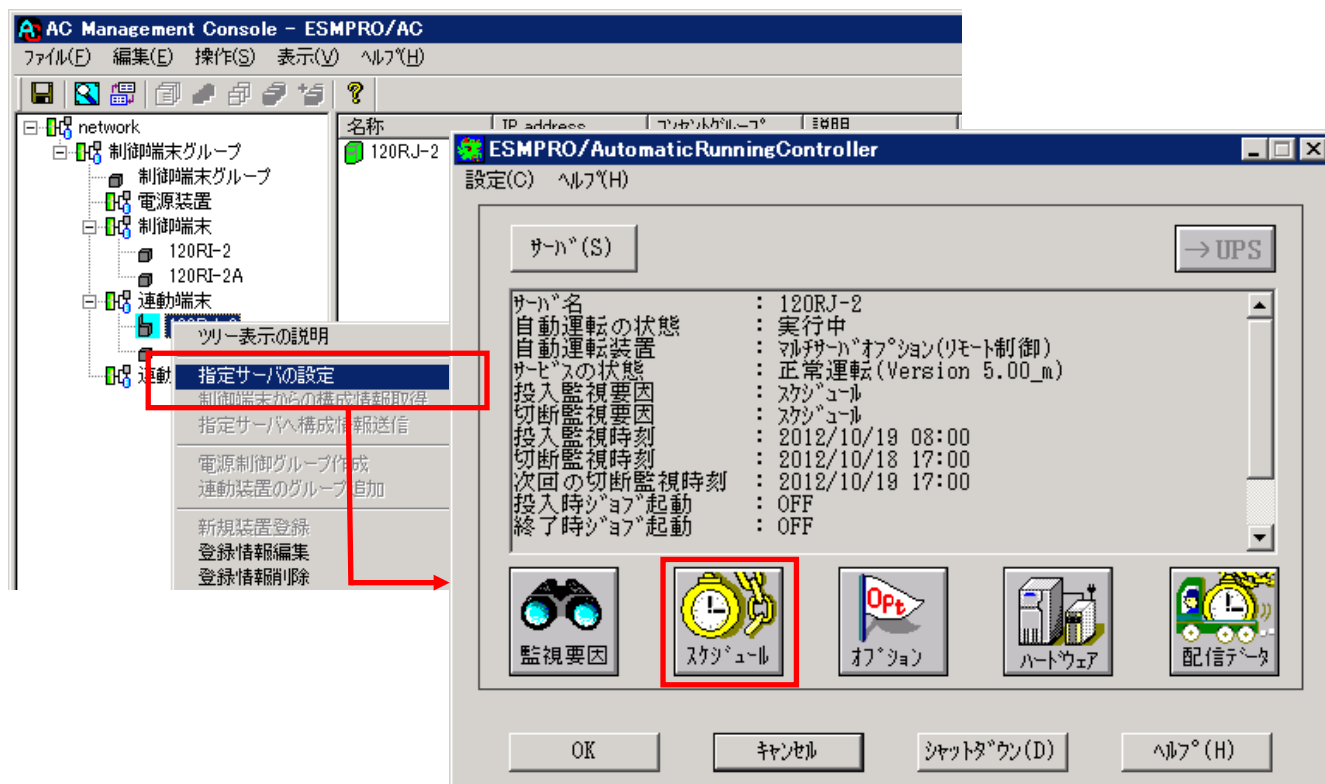
- ①月曜日から金曜日までは、8時00分 に電源投入。17時00分 に電源切断。
- ②土日祝は、運用しない。

### 5.2.1 Windows 連動端末への直接設定

(1) ESMPRO/AutomaticRunningController GUIの起動。

[スタート]メニュー → [プログラム] → [ESMPRO\_AutomaticRunningController] → [AC Management Console]を起動してください。

起動すると以下のような画面が表示されますので、AC Management Consoleのツリー上で設定を行う対象となるサーバ（以下の画面の場合は、連動端末の 120RF-1）を選択し、右クリックメニューの「指定サーバの設定」を選択して、ESMPRO/AutomaticRunningController GUIを起動してください。



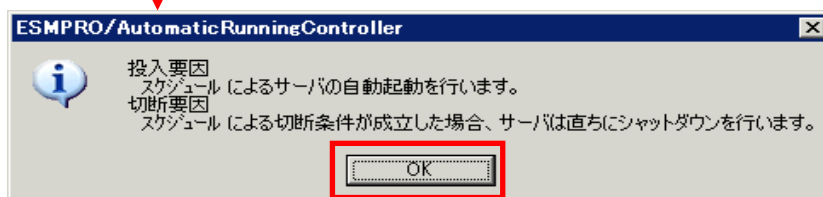
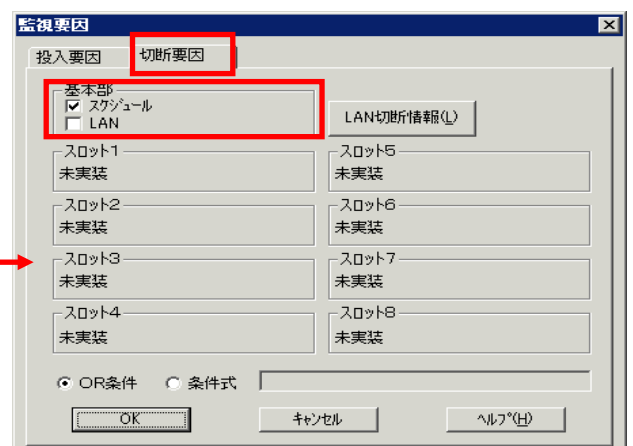
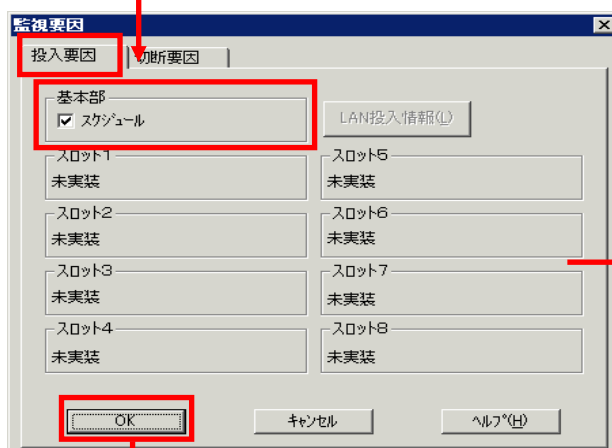
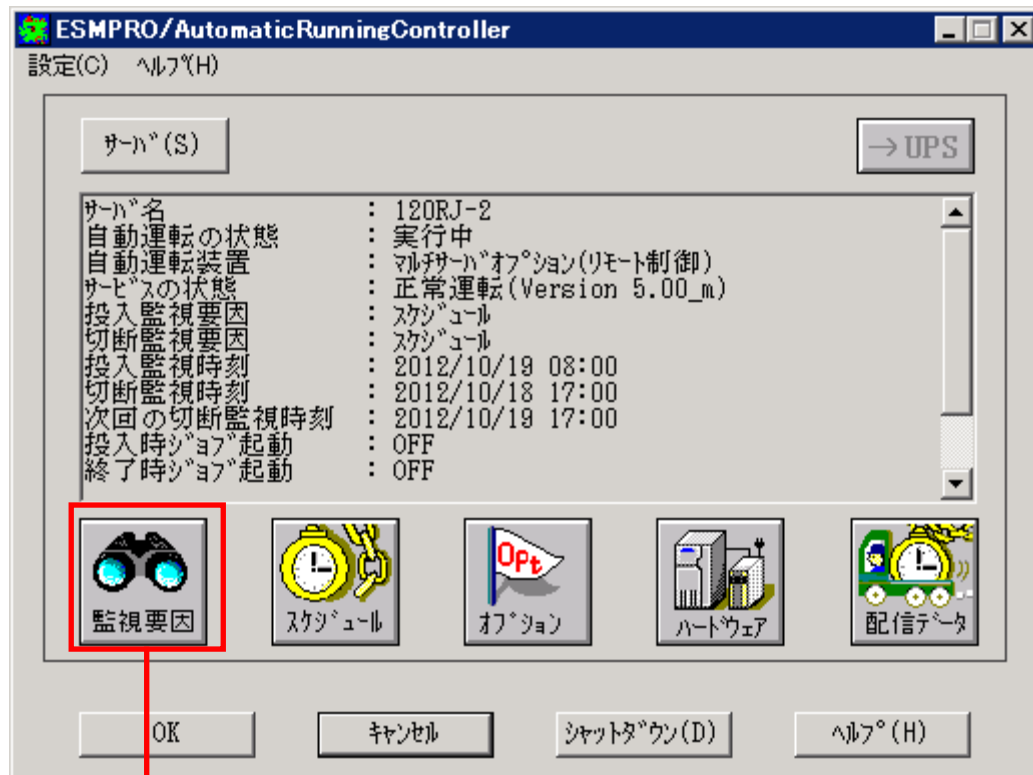
(2) スケジュールの設定は「5.1 制御端末のスケジュール設定 (2) (3)」と同様の方法でスケジュール運転の設定を行ってください。

(3) 以下のような画面に戻りましたら、「監視要因」ボタンを選択してください。

①以下のような画面が表示されましたら、「投入要因」タブと「切断要因」タブ内にある、基本部” 欄の「スケジュール」のチェックを有効にしてください。

その後「OK」ボタンを選択してください。

② メッセージ画面が表示されますので、「OK」ボタンを選択してください。



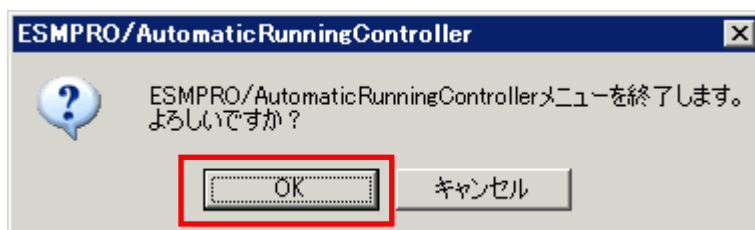
(4) 以下のような画面に戻りましたら、「OK」ボタンを選択してください。



以下のような画面が表示されます。

「OK」ボタンを選択すると、ESMPRO/AutomaticRunningController GUI が終了します。

「キャンセル」ボタンを選択すると、投入監視要因、切断監視要因、投入監視時刻、切断監視時刻、次回の切断監視時刻に、スケジュール運転情報が表示されます。



- (5) 「スケジュール」ボタンを選択し、グラフィック表示やカレンダー表示にて正しくスケジュールが登録されていることをご確認ください。

**ESMPRO/AutomaticRunningController**  
設定(C) ヘルプ(H)

サーボ(S) → UPS

サーボ名 : 120RJ-2  
自動運転の状態 : 実行中  
自動運転装置 : マルチサーボオプション(リモート制御)  
サービスの状態 : 正常運転 (Version 5.00\_m)  
投入監視要因 : スケジュール  
切断監視要因 : スケジュール  
投入監視時刻 : 2012/10/19 08:00  
切断監視時刻 : 2012/10/18 17:00  
次の切断監視時刻 : 2012/10/19 17:00  
投入時シャフト起動 : OFF  
終了時シャフト起動 : OFF

監視要因 スケジュール

OK キャンセル

**スケジュール**

スケジュール表示 カレンダー表示

スケジュール有効期間: 2012年10月から2022年09月まで 変更(C)

運用スケジュール

グラフィック(G)

設定(S) 修正(R) 削除(D)

**120RJ-2 - ESMACGRS**  
ファイル(F) ヘルプ(H)

12 年 10 月 18 日 表示(G)

2012 年 10 月 18 日 (Thu)

表示スクロール タイムスケール: 週  
<<-(A) (S)->> -(K) (L)+

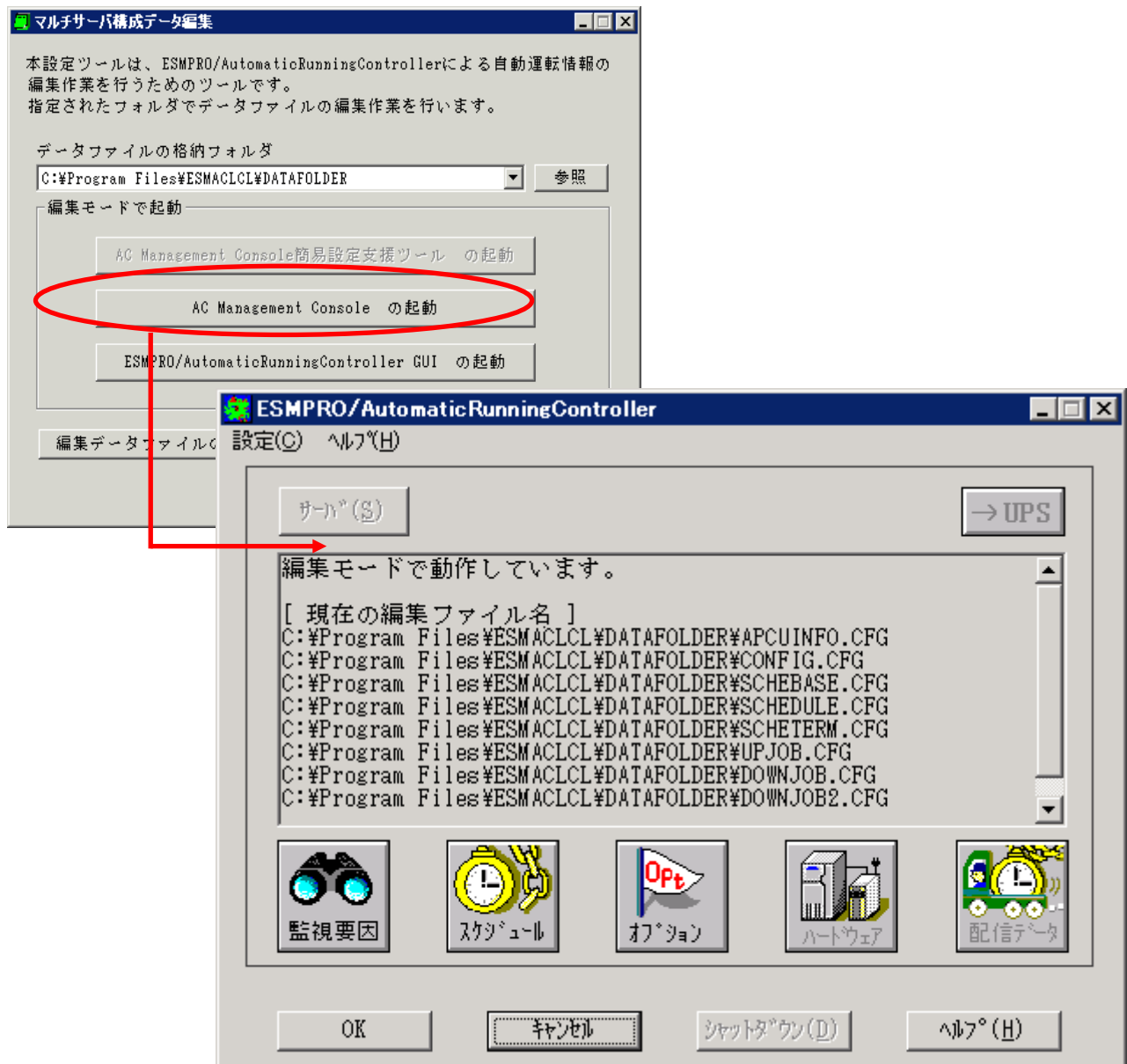
10/14 (Sun)	(Mon)	(Tue)	(Wed)	(Thu)	(Fri)	(Sat)	10/21 (Sun)	(Mon)	(Tue)	(Wed)
運転停止	運転停止	運転停止	運転停止	運転停止	運転停止	運転停止	運転停止	運転停止	運転停止	運転停止

表示可能スケジュール : ~2022/09/30 17:00迄 レコード数 : 3488

青い所をクリックすると  
ここに詳細を表示します

## 5.2.2 Windows 連動端末へ設定ファイルを送信

- (1) [マルチサーバ構成データ編集] の起動。  
[スタート]メニュー → [プログラム] → [ESMPRO\_ACL Client] → [マルチサーバ構成データ編集] を起動してください。
- (2) ESM/PRO/AutomaticRunningController GUI の起動。  
[マルチサーバ構成データ編集] → [ESM/PRO/AutomaticRunningController GUIの起動] を選択して、ESM/PRO/AutomaticRunningController GUIを起動してください。

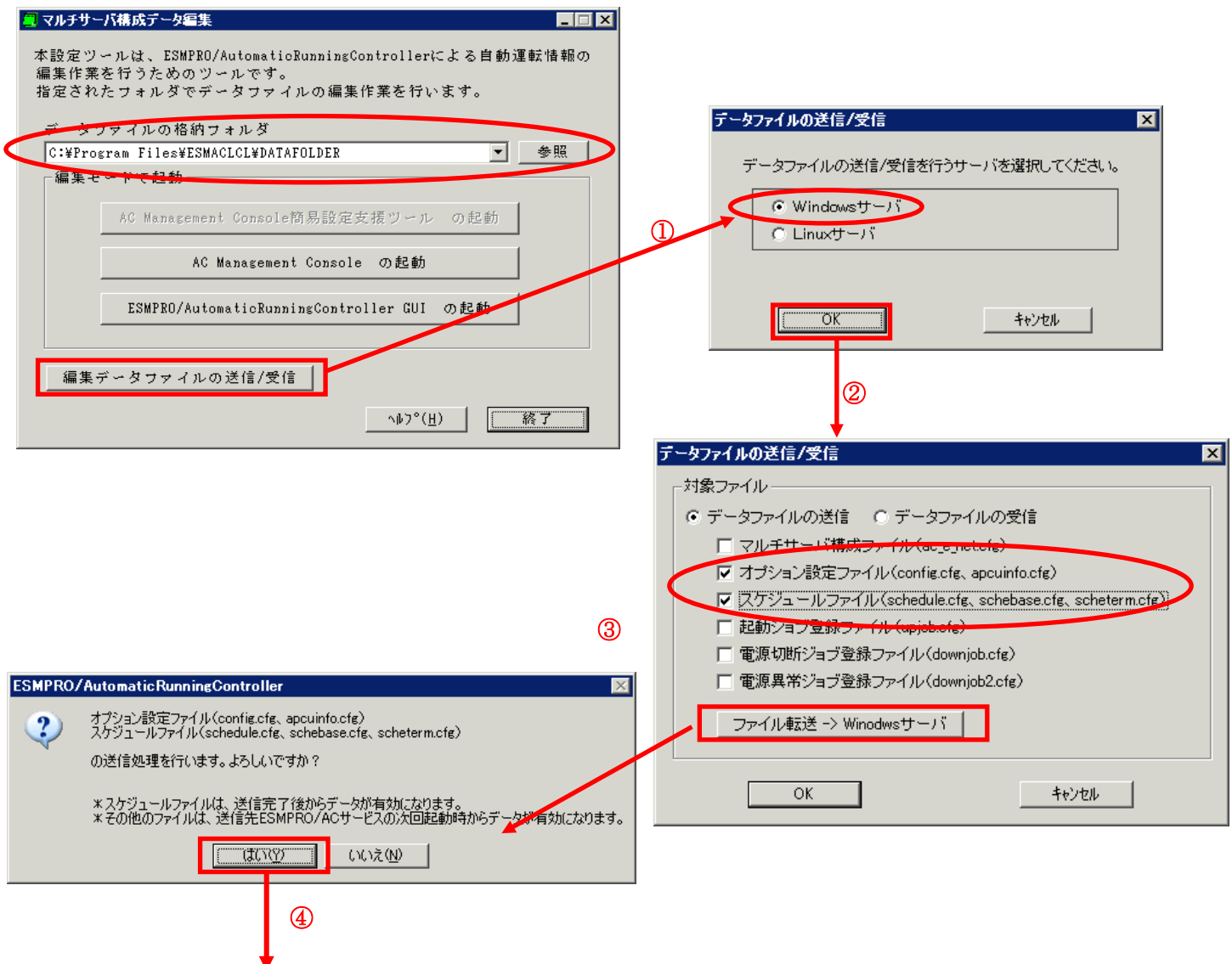


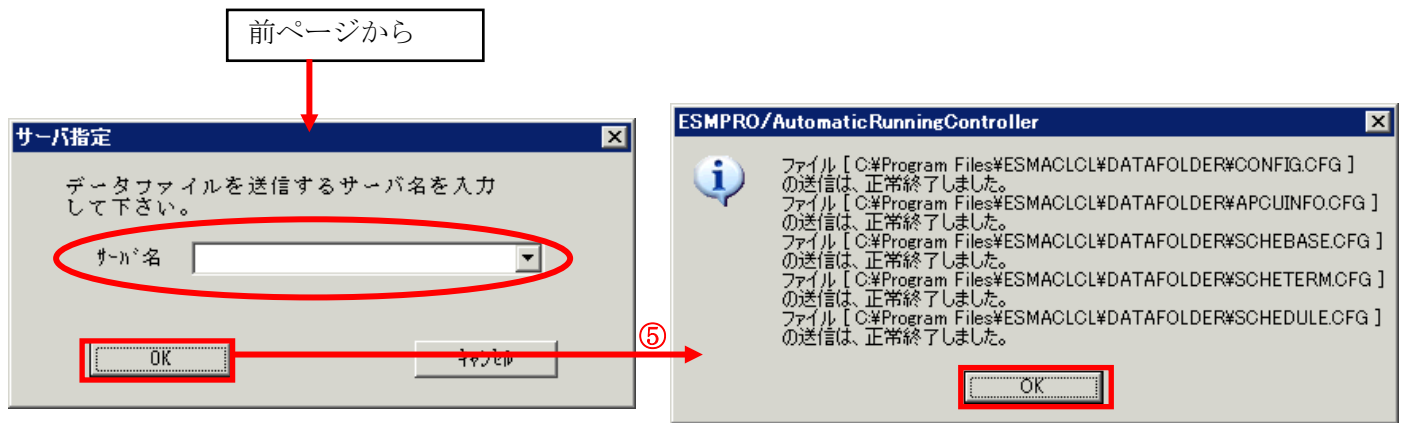
(3) スケジュールの設定/監視要因の設定の反映

「5.2.1 Windows連動端末への直接設定 5.3 (3) (4)」と同様の方法でスケジュール運転の設定を行ってください。Windows連動端末へ設定ファイルを送信。

設定ファイルの更新が完了したら、以下の操作で設定ファイルをWindows連動端末へ送信することが可能です。

- ① データファイルの格納フォルダを指定し、「編集データファイルの送信/受信」を選択してください。  
格納フォルダは、サーバ単位/グループ単位など、再度編集する際に管理しやすいよう任意に作成してください。
- ② [Windowsサーバ] を選択し、「OK」ボタンを選択してください。
- ③ [データファイルの送信] を選択し、必要なファイルのチェックを有効にして、「ファイル転送->Windowsサーバ」ボタンを選択してください。
- ④ 操作の実行確認で「はい」を選択してください。
- ⑤ [サーバ名] に設定ファイルを送信したいサーバのコンピュータ名を入力し、「OK」ボタンを選択してください。





#### (4) サービスの再起動

連動端末の OS のサービス画面から ESMPRO/ARC サービス (ESMPRO/ARC Service) を再起動してください。

#### (5) Windows 連動端末へ送信した設定ファイルの確認方法

「5.2.1 Windows 連動端末への直接設定 (1)」の手順どおり連動端末の ESMPRO/AutomaticRunningController GUI を起動し、「スケジュール」ボタンを押して設定内容が正しく反映されているかをご確認ください。

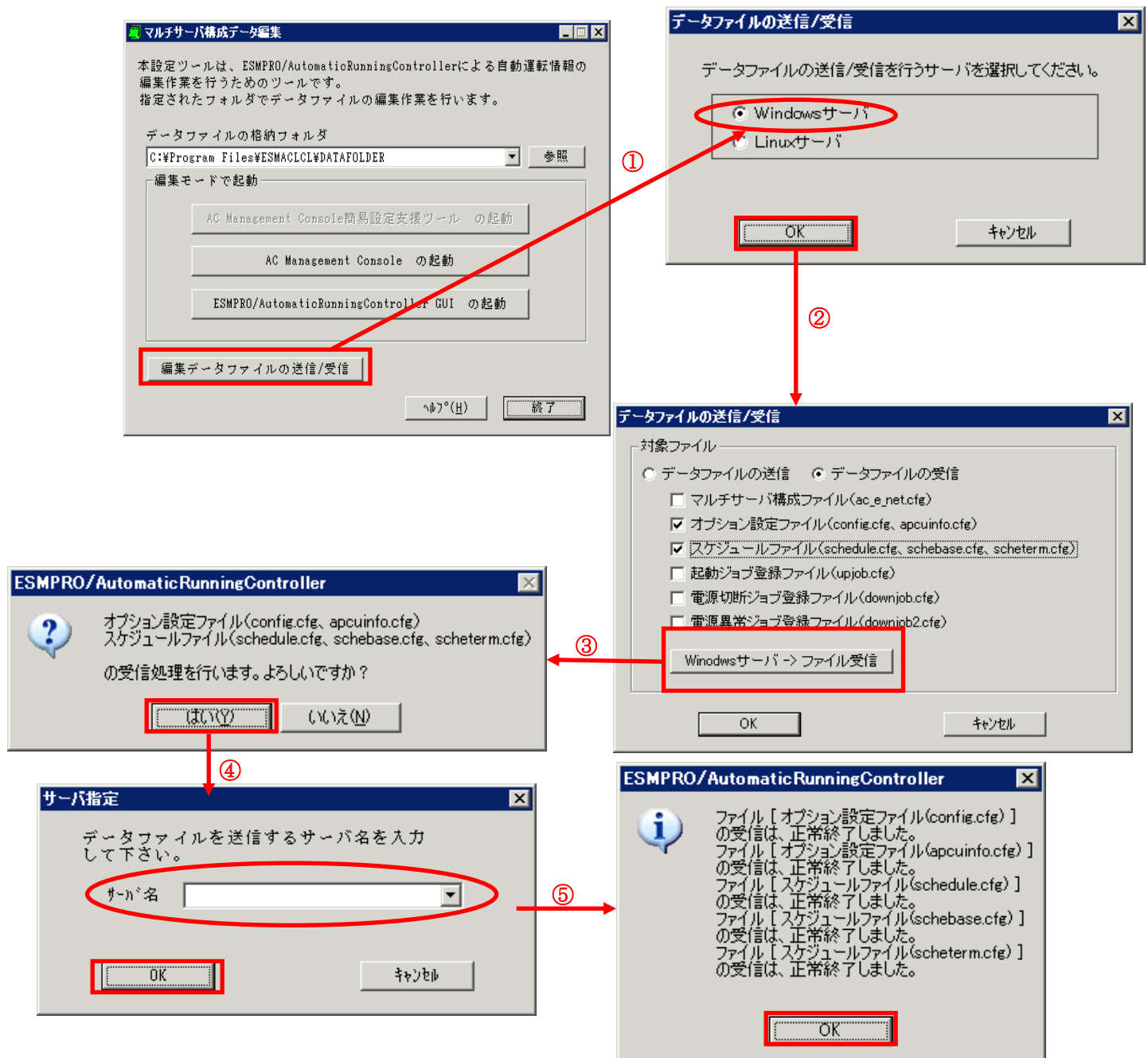


## <参考>

### サーバから設定ファイルのコピー

すでに制御端末または Windows 連動端末のスケジュール運転の設定を行っている場合、以下の操作で設定ファイルを受信し、Windows 連動端末への設定のベースとして利用することが可能です。

- ① データファイルの格納フォルダを指定し、「編集データファイルの送信/受信」を選択してください。
- ② 「Windows サーバ」を選択し、「OK」ボタンを選択してください。
- ③ 「データファイルの受信」を選択し、必要なファイルのチェックを有効にして、「Windows サーバ->ファイル受信」ボタンを選択してください。
- ④ 操作の実行確認で「はい」を選択してください。
- ⑤ 「サーバ名」にスケジュール運転の設定を行ったサーバのコンピュータ名を入力し、「OK」ボタンを選択してください。



## 第6章 障害発生時には

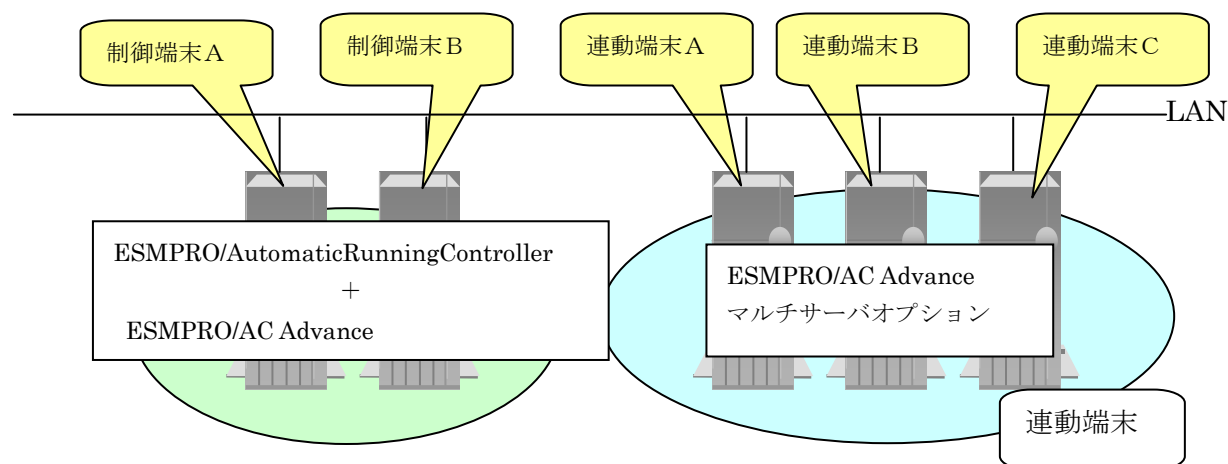
障害発生時には、お手数ですが、以下の情報を採取してください。

- ・ ESMPRO/AutomaticRunningController ログ
- ・ イベントログ
- ・ バージョン情報

（以上の採取方法につきましては、「ESMPRO/AutomaticRunningController セットアップカード」をご参照ください。）

## 6.1 マルチサーバ構成でのログ採取方法

システムの構成が、マルチサーバ構成の場合、次のような方法でログを採取してください。



例えば、上図のようなマルチサーバ構成の場合、

### (1) 制御端末

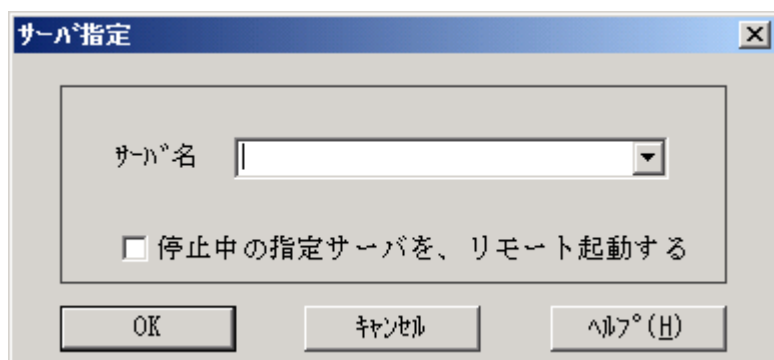
すべての制御端末（この例の場合、制御端末A、制御端末Bの両方）でESMPRO/AutomaticRunningControllerのセットアップカードを参照して必要なログを採取してください。また、その他に下記ログの採取もお願いいたします。

### (2) 連動端末 (Windows サーバ)

制御端末および、管理GUIのインストールされているコンピュータのESMPRO/AutomaticRunningController GUIを使用し、下記手順で、連動端末A、B、Cそれぞれのログを採取してください。

例えば、制御端末Aから連動端末Aのログを採取する場合

- ①制御端末のESMPRO/AutomaticRunningControllerメインメニューのサーバボタンを選択すると、以下のサーバ指定ダイアログが表示されます。

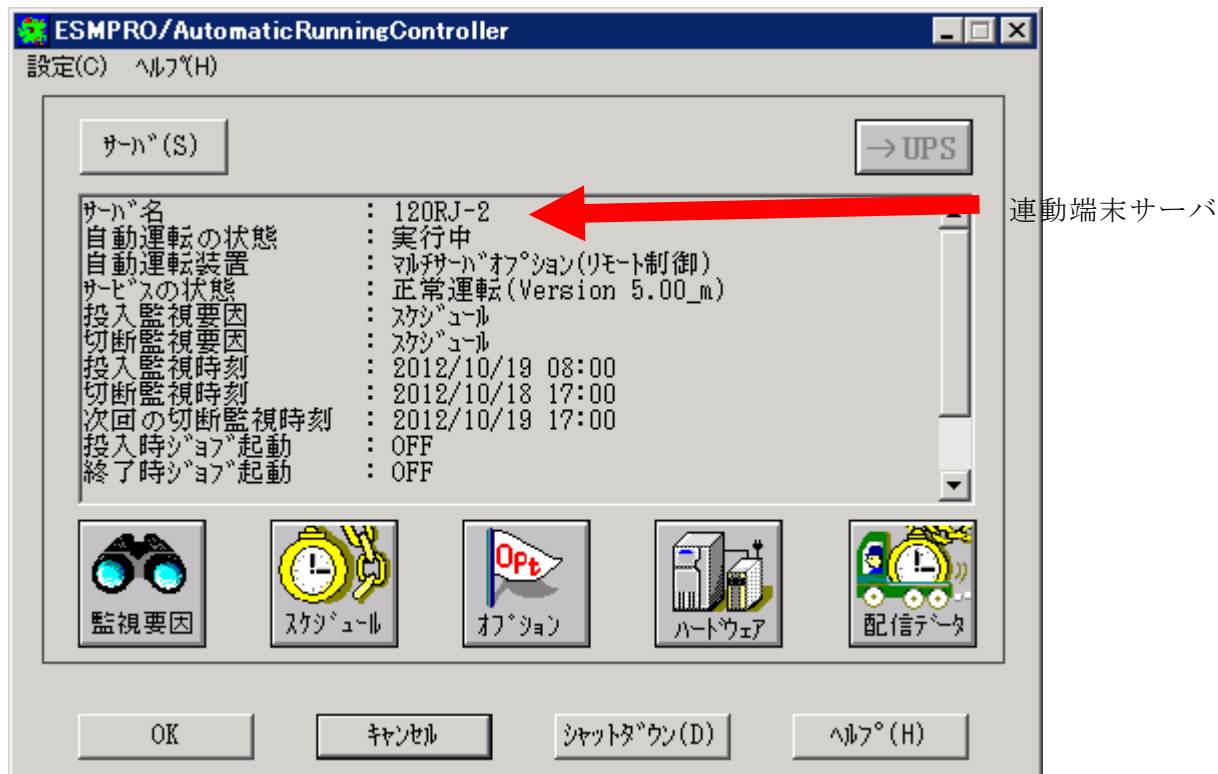


②サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、連動端末Aのサーバ名を入力し、OK ボタンを選択して、連動端末Aに接続します。

例えば、連動端末のサーバ名が、「110RH-1」の場合、上記サーバ指定で

110RH-1

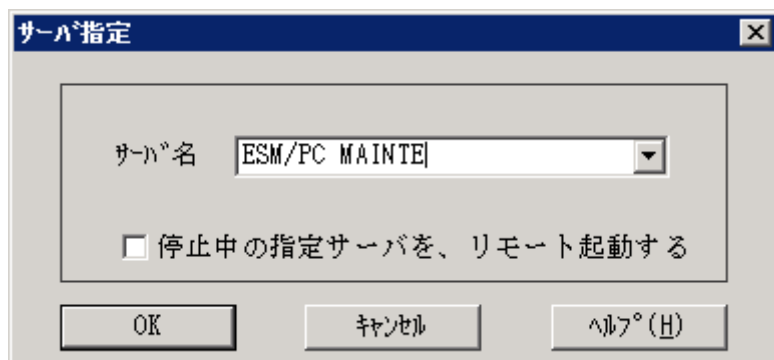
と入力します。接続しましたら下記のように表示されます。



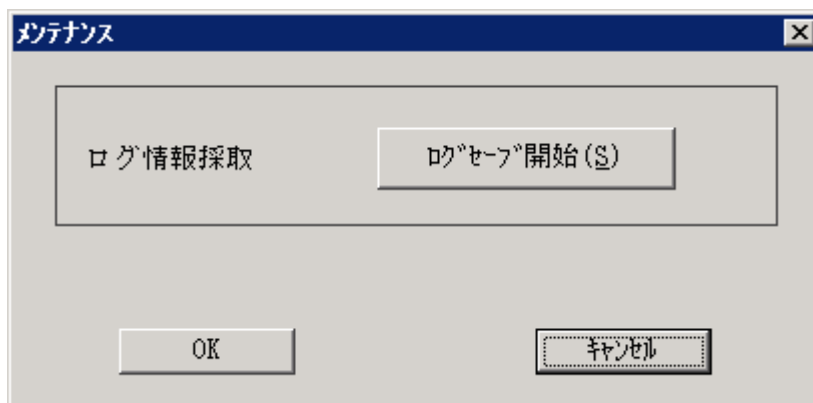
③もう一度、サーバボタンを選択し、サーバ指定ダイアログを表示させます。サーバ指定ダイアログのサーバ名のところに、

ESM/PC MAINT

と入力し、「OK」ボタンを選択します。

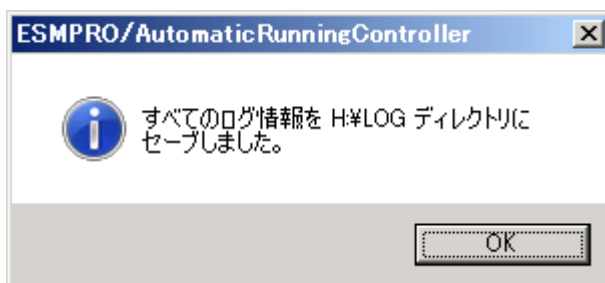


④「ログセーブ開始」ボタンを選択してください。ログ採取が開始されます。



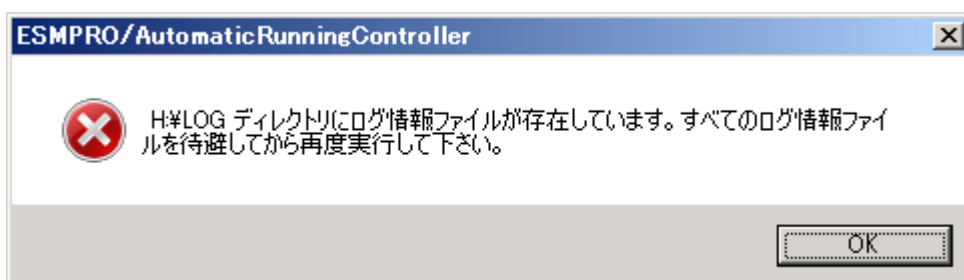
ログ採取が終了すると、以下のダイアログが表示されます。

#### ログ採取正常終了メッセージ



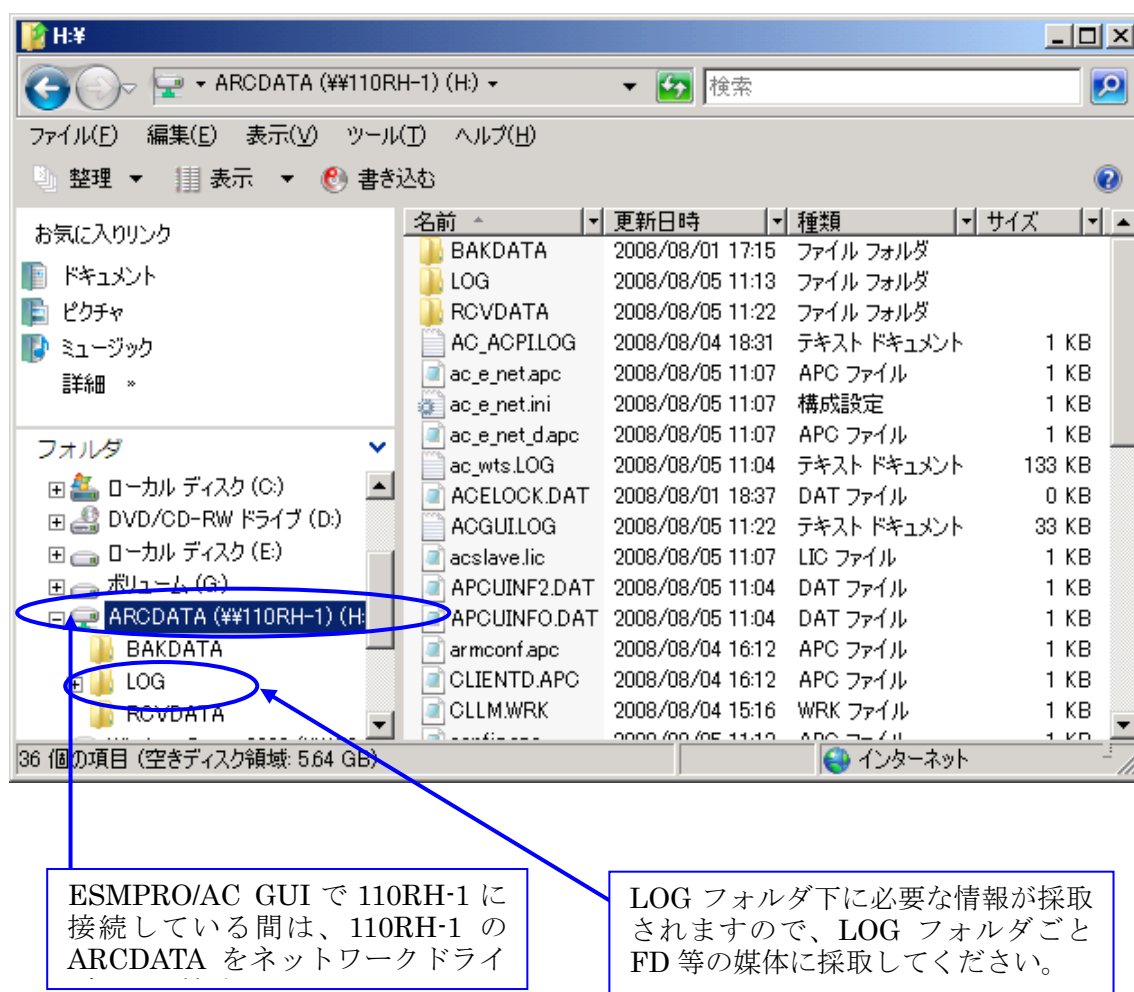
ログ採取正常終了のメッセージです。⑤の作業を実行してください。

#### ログ採取異常終了メッセージ



上記のエラーメッセージが表示された場合、既にログファイルが存在することが考えられます。ログ採取に失敗した連動端末の ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ下の DATA¥LOG 下にログファイルが存在する場合は、ファイルを退避するか削除して、操作をやり直してください。

⑤制御端末のエクスプローラを実行して、ログ情報を採取してください。



※LOG フォルダ下に採取されるファイルは、採取するタイミング／状態によって異なります。  
 (スケジュールの有効期間が長い場合、登録するスケジュール項目が多い場合などは、ログファイルのサイズが大きくなります。)

Readme : サービスおよび GUI の動作不良のため、上記操作でのログ採取できない場合は、以下の方法で採取をお願いいたします。

- ①エクスプローラ等を使用してください。
  - ②連動端末の ESMPRO/AutomaticRunningController インストールディレクトリ¥data ディレクトリ下のすべてのファイルを採取してください。
- ※ネットワークが不調な場合などは、連動端末のエクスプローラを使用して直接採取することもできます。

## 第7章 注意事項

### 7.1 セットアップ関連

ESMPRO/AutomaticRunningController と ESMPRO/AC Advance をインストールする場合、インストールするソフトウェアのバージョンは必ず両方とも「Ver5.0」の製品をインストールしてください。

### 7.2 運用時における注意

- ESMPRO/AC Advance をインストールした環境でスケジュール運転を行う場合、制御端末自身へは電源 ON 制御が必要となる停止期間を持つスケジュール設定（電源 OFF から ON までの間隔が2分間以上空いている設定）は行わないでください。

これは、制御端末が自サーバの ON 制御を行うことができないためです。ただし、電源 ON 制御が必要でないリブートを行うスケジュール設定（電源 OFF から ON までの時間が1分間に設定）は可能です。制御端末のリブートに掛かる時間中は連動端末に対する電源制御が行えませんので、制御端末のリブート時刻と連動端末の ON/OFF 時刻が重複しないように設定してください。

その他の連動端末に対しては各サーバで独立したスケジュールで運用可能です。

- AC Advance 製品では、サーバに備わっている物理的な MAC Address に対して Wake On LAN を送信することにより、サーバの起動を行います。

この際、制御端末から連動端末への Wake On LAN パケットは、ブロードキャスト・アドレス宛に送信されます。このため、制御端末の監視対象となる連動端末は、制御端末と同じネットワークセグメントで構築されている必要があります。

また、AFT(アダプタ・フォールト・トレラント)のチーミング設定などのネットワーク冗長構成を行ったネットワークデバイスに、ユニークな MAC Address を割り当てた運用を行うシステムに対しては、Wake On LAN 運用ができません。チーミングを構成する、いずれか1つの物理的な MAC Address をチーミングしたネットワークデバイスの MAC Address として設定、運用してください。

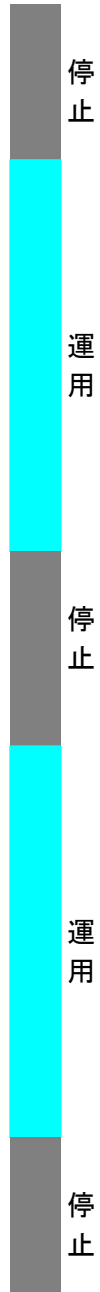
<設定例>

制御端末



←リブート

連動端末  
1



連動端末  
2



連動端末  
3



連動端末  
4

